

令和6年度以降使用

教科用図書選定の資料

小 学 校 用

令和5年6月

佐賀県教育委員会

はじめに

令和5年度は、令和6年度以降使用の小学校用教科用図書の採択年度である。教科用図書の採択にあたっては、特に慎重な調査研究に基づいて、その適正を期することがきわめて大切である。

県教育委員会は、小学校用教科用図書の採択に資するため、教科用図書選定審議会に諮問してこの資料を作成した。

各関係機関におかれては、この資料を十分活用し、教科用図書の調査研究を行っていただきたい。

1 選定資料作成について

本資料は、次の要領で作成した。

- (1) 教科用図書の調査研究は、学習指導要領に基づいた各教科（種目）共通の五つの「基本的観点」及び、教科用図書の分量・構成等を客観的な数値で表す「データの観点」に沿って行った。
- (2) 調査の対象となった教科用図書は、「小学校用教科書目録（令和6年度使用）令和5年4月、文部科学省」に記載されたもの全てを対象とし、収録の順序は発行者番号順とした。
- (3) 本選定の資料は、最初の1ページに各教科（種目）名を示し、その裏面に観点項目を掲げた。次いで、調査研究の結果を1ページに1発行者分としてまとめたもの及び、データの観点研究の結果を掲載した。
- (4) 調査研究の結果は、観点項目に応じて、特長的な内容について簡潔適切な文章表現による方法で表現した。

目 次

国 語	3
書 写	9
社 会	1 5
地 図	2 1
算 数	2 7
理 科	3 7
生 活	4 7
音 楽	5 7
図画工作	6 3
家 庭	6 9
保 健	7 5
英 語	8 5
道 徳	9 5

国語

観 点 国 語

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成したりするなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

児童の「思考力・判断力・表現力等」をはぐくむ観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、児童が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、児童の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平明さ】

教材と内容との関係が明示してあるか。内容は、他の内容や他の教科等、学年、及び中学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、児童の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにすることについて、どのように示しているか。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことについて、どのように示しているか。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うことについて、どのように示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

- (1) 教材が、各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的にどのように取り上げられているか。
- (2) 各学年の内容の〔思考力・判断力・表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の（2）に掲げられている言語活動が十分行われるよう、どのように示しているか。
- (3) 教材が次のような観点に配慮されているか。
 - ① 国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ② 伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ③ 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ④ 科学的、論理的に物事を捉え考察し、視野を広げるのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ⑤ 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ⑥ 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ⑦ 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ⑧ 我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育てるのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ⑨ 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家、社会の発展を願う態度を育てるのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ⑩ 世界の風土や文化などを理解し、国際協調の精神を養うのに役立つことについて、どのように示しているか。

I 基本的観点

観点項目	教科		発行者の番号・略称		書名
	国語	2	東書		新編 新しい国語
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元ごとに学習を通じて育成する資質・能力を「言葉の力」として明示し、単元を通して意識して学ぶことができるようにしている。また、年間を通して、児童がこれまでに身に付けた力は何なのかを確認し、学習全体を見通しながら学ぶことができるように工夫している。さらに第3学年以上では、前学年で学習した「言葉の力」も合わせて掲載し、系統やつながりを意識して学習を振り返ることができるようにしている。 ○ 「言葉相談室」の新設や、「情報のとびら」におけるエラーモデルの提示によって、児童自ら学習課題を見だし、つまずきやすい事項に着目して正しく表現することができるようにしている。 ○ 「漢字を使おう」では、言葉の特徴や使い方について理解を深めながら豊かな語彙を身に付けることができるように工夫している。 				
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活用を促すために、「生かそう」という項目を設定し、その単元で身に付けた力を、児童が他教科や日常生活のどのような場面で活用することができるかを分かりやすく示している。 ○ 日常生活に即した題材を豊富に例示し、児童が自らの生活と結び付けて取り組める内容にしている。 ○ 広告や新聞等の日常生活で接する実用的なテキストを複数読み比べ、書き手の目的や意図に応じた表現について考える単元を設定している。 				
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見通しと振り返りを重視し、単元末の「ふり返る」では、身に付けた力だけでなく、学び方への評価を促すような文言を示している。 ○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、話し合いのモデルやパンフレットなどの書き方の例を具体的に示し、取り組みやすくなるように工夫している。 ○ 各学年のはじめに「国語ノートの作り方」「デジタルノートの作り方」を設定し、書く内容の整理の仕方や思考操作の例を示すことで、自己の考えを形成する手立てとしている。 ○ 「本は友達」として、4月、7月、12月の年間3カ所に読書単元を設定し、読書に親しむ習慣や態度を育むようにしている。また、6学年を通して580冊以上の図書を紹介し、友達と読書体験を共有する読書活動を通じて、読書意欲を高めるように工夫している。 				
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2学年以上の各巻巻末には、当該学年で学習する「言葉の力」を見通す「言葉の力のつながり」を設けて、児童が系統性を意識して学ぶことができるようになっている。 ○ 各校のカリキュラムに柔軟に対応するために、複数の教科との関連的な指導、地域との連携を図ることができる教材や題材を積極的に取り上げている。 ○ 物語・説明文の本文には、5行ごとの行数字に加え、1行ごとに行を示す「・」を付け、行を見つけやすいようにしている。 				
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挿絵は場面の様子を分かりやすく表したのようになっており、配色は淡く文章の読解を妨げないものになっている。 ○ 図表は集めた情報を整理する方法やポスターの割り付けの仕方などを分かりやすく示したのになっている。また、多くの単元で「学習の流れ」を図表で示し、児童の主体的な学習の一助となっている。 				

I 基本的観点

観 点 項 目	教科		発行者の番号・略称		書名
	国語	17	教出		ひろがる言葉 小学国語
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「読むこと」教材では、全学年において「てびき」による4つのステップ構造（「確かめよう」「くわしく読もう」「まとめよう」「伝え合おう」）の学習内容が設定されており、「自ら考え、表現する」という学びの定着を図ることができるようにしている。 ○ 児童が必要な情報を取り出したり、情報と情報の関係を整理したりすることができるように、体系的な「情報のまとめ」のページを巻末に設定している。 ○ 「言葉をふやそう」では、教材内で扱われた言葉と関連のある言葉を提示し、語句集めと文作りの活動を通して、児童の「語彙」を増やし、実生活での定着を図るよう工夫している。 				
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「読むこと」で習得したことを「話すこと・聞くこと」や「書くこと」で活用することができるように領域を組み合わせ、学んだことを生かすことができるように構成している。 ○ 必要な情報を取捨選択し、明確な根拠をもとに自分の意見をまとめられるように、様々な種類の資料を提示した教材を設定している。 ○ 各領域で身に付けた力の活用がイメージできるように、巻頭「○年生で学ぶこと」では、実生活でどのように役立つのか活用場面を例示している。第3学年以上には、SDGsとの関連を示す単元をマークで示し、児童の興味・関心を高めたり、他教科との関連を想起したりしやすい工夫を施している。 				
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「読むこと」教材の主要な単元の扉には、学習のめあてと単元へ誘う一文を掲載し、児童の学習意欲を高める工夫をしている。また、「学習のてびき」の「ふり返ろう」で学習を振り返ることで、学びが一本につながり、どんな学習をしてどんな力がつくのかを児童が自覚しながら学習に取り組むことができるようにしている。 ○ 「書くこと」単元を中心に、新聞やポスター、ポップなどの手描きモデルが示されていて、言語活動のゴールを見通しやすくなっている。 ○ 豊かな読書生活を実現するために、「本を読もう」で読書につなげたり、「読書の広場」で各学年において図書館利用のための知識や方法を紹介したりしている。 ○ 夏休み前の学習時期に「ひろがる読書の世界」を設定し、読書への意欲を高めるような工夫を施している。 				
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語や説明文の指導にあたっては、その単元の目標や学習のめあて、学習の手立てを明示し、児童が学習の見通しをもって学びを進めることができるように工夫している。 ○ 巻末に「学ぶときに使う言葉」、「情報のまとめ」、「『ここが大事』のまとめ」を示し、教科書で学んだことを他教科で活用できるようにしている。 ○ 児童の学習の一助となるように、メモの取り方などの学習活動例を多く示している。 				
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数多くの写真や挿絵があり、児童の学習意欲を高め、文章の理解を助けるイメージ豊かなものになっている。 ○ 活動の手順や留意点を分かりやすく示したり、説明的な文章の理解を助けたりするために図表を多く取り入れている。 ○ 教科書巻末の付録にある新出漢字は鉛筆書きを彷彿とさせる字体（硬筆体）になっており、児童にとって親しみやすくなるよう工夫している。 				

I 基本的観点

観点項目	教科		発行者の番号・略称		書名
	国語	38	光村		国語
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2学年以上の各巻末に「ことばのたからばこ」を示しており、伝えたいことに合う言葉を探す際に利用することで、児童の語彙力を高めることができるようにしている。 ○ 第2学年以上の下巻末に「伝え合うためのことば」を示しており、対話的な学習を進めることにつなげることができるようにしている。 ○ 児童の発達段階を考慮して「これまでに習った漢字」については、第1学年は学習順、第2学年は「訓読み」、第3学年以上が「音読み」による50音順で並べており、児童にとって調べやすく、基礎・基本の定着につなげている。また、第6学年の巻末には部首も表記している。 				
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2学年以上の巻末には「学習に用いる言葉」（学習用語）を示し、概念形成に役立てることができる。さらに、授業中にとどまらず、様々な学習場面で活用することを促すことができるようにしている。 ○ 第3学年以上のはじめに会える説明文の学習では、見開き簡潔の短い練習教材で構成を学び、それを活用して長い文章を読むという、2教材構成で段階的に学ぶ作りになっている。 ○ 各単元に、具体的な学習の着眼点や振り返りの観点を示し、学びをメタ的に振り返り、次の学びにつなげることができるようにしている。 				
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭に「どうやって学んでいくのかな」を配置しており、全学年で統一した学びの流れが一目で分かる。これにより、学び方を意識して学習を進めることができる。 ○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元冒頭や「読むこと」の手引き冒頭に、「問いをもとう」を新設し、「あなたはどうか」と問いかけることで、児童一人一人が自分事として考え、問いを持ちやすくなるような工夫している。 ○ 単元末や巻末付録で、多様な読書活動と合わせて、様々なジャンルの図書を紹介しており、それぞれの興味・関心に応じた学習につなげている。 				
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「読むこと」の単元扉に、学習への期待感や教材文を読む際の着眼点を一文程度で分かりやすく記述している。また、同ページに前学年との系統性が確認できるように工夫している。 ○ 相手と目的が明確な話題と児童がイメージしやすい場を設定することで、書く必要性や必然性を感じ、書きたい意欲が高まるように工夫している。 ○ 他教科との関連をもたせる教材や内容を多く仕組んでいる。例えば、「アンケート調査の仕方」は算数科との関連を図っている。 				
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 説明的な文章の内容を補うために見やすい写真が取り入れられている。挿絵は発色がよく目を引くものになっていると同時に、文学作品の時代背景や登場人物の心情をつかむ手がかりになるようにしている。 ○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」単元や、「読むこと」の手引き等に多様な表、マップなどを配置し、考えを形成したりまとめたりする思考ツールとして活用できるように工夫している。 				

種目 国語

※「Ⅱデータの観点」の数値は、国語で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大きさを表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特長を捉える参考とすること。

Ⅱデータの観点

項目		発行者番号・略称			
		2 東書	17 教出	38 光村	
共通データ	①総ページ数		296	326	312
	②単元数	大単元	21	21	21
	③1ページの標準文字数		519	418	483
	④言語活動の充実が図られている学習(活動)	題材数	17	20	25
		ページ数	176	169	170
		ページ割合(%)	59.5	51.8	54.5
	⑤佐賀県に関する項目		0	0	0
	⑥写真等の数	写真	37(※8)	73	82
		図表	51	49	45
		文章資料	34	18	20
⑦指導者用デジタル教科書の有無		有	有	有	
⑧ウェブサイト等へのリンクの数		87(※8)	31	24	
種目別データ	⑨「話すこと・聞くこと」の教材数と割合(%)		5	6	5
			12.8	12.5	10.6
	⑩「書くこと」の教材数と割合(%)		5	6	7.5
			12.8	12.5	16.0
	⑪「読むこと」の教材数と割合(%)		10	14	13.5
			25.6	29.2	28.7
	⑫「我が国の言語文化に関する事項」の教材数と割合(%)		6	4	7
			15.4	8.3	14.9
	⑬「言葉の特徴や使い方に関する事項」の教材数と割合(%)		10	17	12
			25.6	35.4	25.5
	⑭「情報の扱い方」の教材数と割合(%)		3	1	2
			7.7	2.1	4.3
	⑮教材の合計数		39	48	47

※調査対象は、各発行者の第6学年の教科書

※①(総ページ数)：教科書の大きさを基準とし、口絵や折り込みも含めて合計したページ数

※②(単元数・大単元数)：原則として、目次の番号を単元として数えた。番号がないものは、まとまりとして数え、領域と領域をつないだ単元を大単元とした。

※③(標準文字数)：長文の物語教材を基準教材とし、一番文字が多いページの文字数

※④(言語活動の充実が図られている学習)：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断

※⑥(写真等の数)：大きさの大小は問わず1つと数えた。内容の理解をたすけるための写真、図表、文章資料の数

※⑦(指導者用デジタル教科書の有無)：令和6年4月に指導者用デジタル教科書を発刊する予定であるもの

[令和5年6月現在]

※⑧国語科補足説明：項目「共通データ」「⑥写真等の数」において、東京書籍の写真数が他発行者に比べて極端に少ない傾向にあるのは、「⑧ウェブサイト等へのリンク」の数を増やしてあるからだと考えられる。

書 寫

観 点 書 写

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成したりするなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

児童の「思考力・判断力・表現力等」をはぐくむ観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、児童が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、児童の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係が明示してあるか。内容は、他の内容や他の教科等、学年、及び中学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、児童の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

(1) 書写に関する指導事項（我が国の言語文化に関する事項）について、その特質を理解し適切に使うことができるようにすることについてどのように示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

(1) 第1学年及び第2学年において育成することを目指す知識及び技能に関する内容との関連

- ・ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くことを理解し使うことについて、どのように示しているか。
- ・ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くことを理解し使うことについて、どのように示しているか。
- ・ 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くことを理解し使うことについて、どのように示しているか。

(2) 第3学年及び第4学年において育成することを目指す知識及び技能に関する内容との関連

- ・ 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くことを理解し使うことについて、どのように示しているか。
- ・ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことを理解し使うことについて、どのように示しているか。
- ・ 毛筆を使用して、点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くことを理解し使うことについて、どのように示しているか。

(3) 第5学年及び第6学年において育成することを目指す知識及び技能に関する内容との関連

- ・ 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くことを理解し使うことについて、どのように示しているか。
- ・ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くことを理解し使うことについてどのように示しているか。
- ・ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くことを理解し使うことについて、どのように示しているか。

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	書写	2	東書	新編 新しい書写
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年の巻頭に「書くときの姿勢」「筆記具の持ち方」「かたづけ方」を写真で説明している。また、「書くときの姿勢」は「足ぺた・ぴん・とん」と表し、「とん」は筆記具をもたない手で紙を押さえ、より姿勢が安定する書き方を大事にしている。 ○ 第2学年以上で、身に付けるべき知識・技能を「書写のかぎ」として、箇条書きで示し、要点は赤色で示し、児童が意識できるように工夫している。また、巻末には既習学年の「書写のかぎ」をまとめ、授業や家庭学習で振り返りが随時できるようにしている。 ○ 第2学年以上で、第1時目に、前学年の既習事項の振り返りを設け、文字を書いて確かめる構成に統一し、基礎・基本を繰り返し学習し、定着するように工夫している。 ○ 「毛筆」の手本には同じページに、薄墨と朱墨による「穂先の動き」が分かる手本写真を掲載し、運筆中の児童の視線の動きを最小限にする工夫をしている。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年で活用教材「生活に広げよう」を2単元ずつ構成し、学習したことの他教科や学校生活への活かし方を示し、実際の言語活動例として挙げている。 【例】第1学年：日記を書こう、第3学年：実験したことを記録しよう、 第6学年：発表のためのポスターを書こう ○ 「文字といっしょに」のコラムでは、道具の制作や古典文学などの「文字文化」に触れ、児童の興味・関心を引き付け、学ぶ意欲を高めることができるように工夫している。 ○ 「毛筆」を学習する第3学年以上では、学習段階「見つける」「確かめる」の後に、「生かす」として他の文字の手本を提示し、記入する枠を設け、硬筆に生かす工夫をしている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2学年以上は、裏表紙にある「おかしな○○」で、児童の日常から課題を見つける導入になっており、「書写のかぎ」を使って解決していく様子を示すことで主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫している。 ○ 第3学年以上は「①見つけよう ②確かめよう ③生かそう」の3ステップでナンバリングされた学習が構成され、①の「見つけよう」では個人の考えを記入したあと、課題の確認をし、話すマークがあることで対話的活動を促すような工夫をしている。 ○ 第3学年以上の「振り返ろう」には「考えた、分かった、書けた」の3観点で活動を振り返るチェックポイントがあり、設問によって「書く」だけでなく「考え」て「理解」できたかを自覚できるようにしている。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「書写のかぎ」は、発達段階に応じた、分かりやすい示し方で説明している。また、文字による説明を補うため、色分けや四角囲み、中心線などで視覚的に理解しやすくしている。 ○ 巻末には、復習しやすく一年間の学習事項「書写のかぎ」を一覧で整理している。 ○ 全学年を通して、3ステップの共通イラスト（虫めがね、鉛筆）があり、進級や次の単元に移った際に、児童の学習活動がスムーズに進むような工夫をしている。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 裏表紙に学習事項のインデックスがあり、どの学習をしているか把握しやすくしている。 ○ 要点をまとめた「書写のかぎ」にUDフォントを使用して、理解を助けている。 ○ 余白を広くとり、ポイントに注視できる工夫がある。また、使用されている写真やイラストの色合いが柔らかく、目が疲れない工夫をしている。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	書写	17	教出	小学 書写
一 【基礎・基本の習得】	<p>○ 書写の学習の基本となる「よい姿勢」「鉛筆の持ち方」について、第1学年では合言葉「①こしびん②あしぺた③ぐうひとつ」や「①ばちばち②ころころ③すうっ④とん」などの擬態語を用いて、分かりやすく表現している。</p> <p>○ 第1、2学年で学習する「筆記具の持ち方」について、「鉛筆」の持ち方を擬態語で表している。また、第3学年以上の「毛筆」の学習では「穂先」の動きを動画で確認することができ、視覚的につかみやすくしており、「運筆」の指導の充実を図っている。</p> <p>○ 第3学年以上で、身に付けるべき知識・技能を「ここが大切」として、文とイラストで示し、要点は赤字にするなど児童が視覚的に理解しやすい工夫をしている。また、「筆圧」や「筆順」「配列」などの学習用語を、色つきの四角囲みで表記し、対話的活動に生かすことができるようにしている。</p> <p>○ 第4学年以上では、第1時目に、毛筆の既習事項の復習が設けられており、基本を繰り返し練習して定着を図るとともに、該当学年の学習につなげるようにしている。</p>			
二 【活用する力の育成】	<p>○ 全学年において、単元のあとに活用単元「レッツ・トライ」を構成し、学んだことを他教科で生かす場面をイメージしながら学習を進めることができるようにしている。</p> <p>【例】第1学年：観察日記、第2学年：横書きノート、第3学年：原稿用紙・お礼状、第4学年：理科ノート・敬老の日はがき、第5学年：年賀状、第6学年：話し合いメモ・校外学習リーフレット・しおりの表紙</p> <p>○ 「知りたい文字の世界」では、漢字やひらがなの歴史に加え、外国の手書き文字などを紹介し、国際的な視点から「文字文化」を捉え、視野を広げる工夫をしている。</p> <p>○ 第5、6学年では手本や資料に「SDGs」の話題を用いて、持続可能な社会の形成に関わる意識を涵養する工夫をしている。</p>			
三 【主体的な学習態度の育成】	<p>○ 学習のはじめと終わりに硬筆で書く欄（「ためし書き」「まとめ書き」）があることで、学習前後の調整力を児童が確認できるようにしている。</p> <p>○ 「ふり返ろう」の項目には「めあて」に対応した1～2観点が具体的に示され、三段階で自己評価し、児童が達成度を自覚できるように工夫をしている。</p> <p>○ 第3学年以上では、鳥の成長イラストと連動した「考えよう」「ここが大切」「生かそう」の3ステップで課題解決型学習を仕組んでいる。また、「考えよう」の問いは「～を話し合ってみよう」と対話的活動を取り入れており、その際の「話し合いのヒント」も提示され、児童の活動を補助する工夫をしている。</p>			
四 【説明の平明さ】	<p>○ 学習用語はピンクの四角囲みで表記し、学習のポイントがどこか分かるようにしている。</p> <p>○ 対話的活動をスムーズに進めるために、「話し合いのヒント」が添えられている。</p> <p>○ 第5、6学年では、「練習用紙の作り方」を載せ、手本を下に敷いて「字形」「配列」などをペンで下書きすることを紹介し、自分に合った方法を選ぶことができるようにしている。</p>			
五 【紙面の明瞭さ】	<p>○ 「ねらい」・説明文・要点をまとめた「ここが大切」などは余白を十分にとり、UDフォントを使用している。余白が狭い部分の説明文は教科書体を用いて読みやすくしている。</p> <p>○ 毛筆手本は「学習項目」と「文字」だけですっきりとしている。</p>			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	書写	38	光村	書写
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年の手本や説明に猫のイラストを使って分かりやすく表現している。特に「運筆」「筆脈」を学ぶ単元では、猫の動きが筆の動きと連動していて視覚的な理解を助けている。 ○ 第1学年では「硬筆」、第3学年では「毛筆」の「スタートブック」があることで、書き方の基礎を学ぶ土台づくりができるような配慮をしている。 ○ 第3学年以上は、身に付けるべき知識・技能を「たいせつ」として、文やイラストで示し、緑枠で囲むことで要点を把握しやすくしている。また、「筆圧」や「折れ」などの学習用語を補助的に入れ、理解を助けている。加えて、第6学年「書写ブック」のまとめでは、「書写の言葉」として六年間の学習用語がまとめられ、復習ができるように工夫している。 ○ 「硬筆」「毛筆」の動画教材は、モデルの運筆だけでなく、アニメーションや写真など4種類に分けられており、目的に応じて児童が選ぶことができるようにしている。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1学年～第5学年では、活用教材「書写広げたい」を2単元ずつ構成し、学んだことを他教科や日常生活で生かす活動を紹介している。第6学年では、「書写ブック」という中綴資料で紹介し、六年間で学習したことを確認し、実生活とつなげている。 ○ 第3学年以上では、全単元の終末「生かそう」のコーナーで、毛筆学習後に硬筆をなぞって書く欄を設け、毛筆の運筆を思い出して書く工夫をしている。 ○ 第4学年では、間伐材を誌面の材料に使用した「SDGsブック」（中綴資料）がある。また、全学年の裏表紙にはSDGsロゴが掲載され、第3学年以上の裏表紙には実践を喚起するカラー写真も併用し、児童に視覚的に意識させる工夫をしている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3学年以上は、学習の流れを、「考えよう、確かめよう、生かそう」の3ステップで示し、見通しを持つことで、児童が主体的に取り組むことができるようにしている。また、指導事項に応じて「比べてみよう」「なぞってみよう」「見ないで書こう」の導入から始まり、めあてを意識できるようにしている。 ○ 「考えよう」では、指導事項に関わる資料を提示し、整った字にするためのポイントを書かせる欄があり、その後の対話的活動につなげる工夫をしている。第5、6学年では、学習課題には「話し合おう」という指示を含めており、意図的に対話的活動が仕組まれている。 ○ 振り返りの欄では、第1、2学年は評価規準を達成したかを○でなぞる、第3学年以上は「ねらい」（評価規準）を「気をつけて書いた」にチェックを入れることで、学習したことを意識できる工夫をしている。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 低学年では、基本点画の終筆を「とまって、びよん」「のんびり、ぐるうり」などの擬態語で表現しているのに加え、キャラクターの動きにセリフを加えて「ぐっ」「すうっ」とイメージさせている。 ○ 毛筆の指導では、「部分の組み立て」において、もとの字を下におき、部首がどのように変化しているかを上に重ねて説明し、字形の変化が理解しやすいように工夫している。 ○ 二次元コードに動画の種類「動画」「写真」「アニメーション」「資料」が記載されており、知りたいことや調べたいことなど、目的に応じて選ぶことができるようにしている。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3学年以上では、ページの配置を、上部2/3に説明、下部1/3に「ねらい・学習の進め方・たいせつ」で統一し、学習がパターン化され、児童が見通しをもちやすいようにしている。 ○ 「単元・教材名」や要点をまとめた「たいせつ」にUDフォントを使用している。 			

種目 書写

※「Ⅱデータの観点」の数値は、書写で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特長を捉える参考とすること。

Ⅱデータの観点

項目		発行者番号・略称		2	17	38
				東書	教出	光村
共通データ	①総ページ数			53	53	57
	③言語活動の充実が図られている学習（活動）	②単元数	大単元	6	6	5
			題材数	4	6	8
			ページ数	7	10	10
			ページ割合 (%)	13.2	18.9	17.5
	④佐賀県に関する項目			0	0	0
	⑤写真等の数		写真	8	15	12
			図表	7	5	5
			文章資料	7	8	14
	⑥指導者用デジタル教科書の有無			有	有	有
⑦ウェブサイト等へのリンクの数			15	15	17	
種目別データ	⑧硬筆のみの教材数と割合 (%)			2	2	2
				20.0	16.7	18.2
	⑨毛筆のみの教材数と割合 (%)			8	7	2
				80.0	58.3	18.2
	⑩硬筆毛筆が一体となった教材数と割合 (%)			0	3	7
				0.0	25.0	63.6
⑪教材の総数			10	12	11	
⑫古典や日本文化を取り入れた教材			5	5	5	

※調査対象は、各発行者の第6学年の教科書

※①(総ページ数)：教科書の大きさを基準とし、口絵や折り込みも含めて合計したページ数

※③(言語活動の充実が図られている学習)：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断

※⑤(写真等の数)：ひとまとまりの内容になっているものを1つと数えた、学習の内容の理解をたすけるための写真、図表、文章・作品例な等。

※⑥(指導者用デジタル教科書の有無)：令和6年4月に指導者用デジタル教科書を発刊する予定であるもの
[令和5年6月現在]

※⑫古典や日本文化を取り入れた教材：教材として取り上げられたもの。付録は除く。

社 会

観 点 社 会

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成したりするなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

児童の「思考力・判断力・表現力等」をはぐくむ観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、児童が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、児童の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係が明示してあるか。内容は、他の内容や他の教科等、学年、及び中学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、児童の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにするために、どのような活動を示しているか。

(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えさせたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養うために、どのような活動を示しているか。

(3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する愛情と地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養うために、どのような活動を示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

各学年において身に付けることを目指す知識及び技能や思考力・判断力・表現力等を育成するために、どのような学習の問題を追及・解決する活動を示し、どのような工夫や配慮が示されているか。

(1) 第3学年の内容

身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて

(2) 第4学年の内容

自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて

(3) 第5学年の内容

我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて

(4) 第6学年の内容

我が国の政治の考え方や仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会	2	東書	新編 新しい社会
一【基礎・基本の習得】	<p>○ 学習上重要なキーワードを「ことば」として明示し、学習のまとめで活用できるようにしている。また、「ことば」の欄に学習内容を踏まえた説明文を付し、ふり返って学習のまとめでも活用できるようにしている。また、「まとめる」段階では、小単元で学習した「ことば」を改めて一覧で提示し、それらの「ことば」を活用して、学習したことをまとめることを促し、基礎・基本が定着するよう工夫している。</p> <p>○ 「まなび方コーナー」では、具体的な学習の技能や方法を、「見る・聞く・ふれる」、「読み取る」、「表す・伝える」の3つの視点から示し、発達段階に応じて学べる工夫している。</p>			
二【活用する力の育成】	<p>○ キャラクターを使って、「位置や広がり」「時間」「かわり」といった着目するポイント、「比べる」「分類する」「総合する」「関連付ける」といった考える方法を提示して、資料から読み取ったことを活用して、「社会的事象の見方・考え方」を働かせながら、知識を獲得できるよう工夫している。</p> <p>○ 各小単元末の「まとめる」場面に紙芝居や年表にまとめる等、言語活動を軸にした多様な表現活動を仕組み、習得した知識を定着させるとともに、思考力、判断力、表現力を育てることができるような小単元の構成の工夫をしている。</p> <p>○ 学習指導要領で「選択・判断」が示されている箇所を中心に、「いかす」場面として、実生活・実社会の課題について考えたり、話し合ったりするような活動を設定している。また、SDGsや主権者教育等、社会に見られる今日的課題に関する内容が充実している。</p>			
三【主体的な学習態度の育成】	<p>○ 全ての単元に、単元のため、小単元の学習問題、本時のためを構造的に紙面に明示し、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」といった学習段階をたどりながら見通しをもって問題解決的な学習を効果的に進めていくことができるように工夫している。</p> <p>○ 各学習段階に応じて二次元コードが掲載されており、見開きイラストやインタビュー動画、ワークシートなど、個別でも協働でも活用できるよう工夫している。</p> <p>○ 学習指導要領に選択的に例示されている事例について、「ひろげる」ページを設け、発展や比較、補充など柔軟に扱うことができるよう工夫している。</p>			
四【説明の平明さ】	<p>○ 「学習の進め方」として、問題解決的な学習の流れを「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」として提示し、それぞれの学習段階ごとに留意することや活動等を具体的に例示することで、問題解決的な学習を分かりやすく進めることができるようにしている。</p> <p>○ 「まなびのポイント」で主な学習活動を示し、見通しをもって学習を進めることができるように工夫している。</p> <p>○ 生活科や中学校の社会科の学習への接続に配慮している。特に、中学校の学習内容を「中学校に向けて」で見開き掲載し、中学校での学習の関心を高める工夫をしている。</p>			
五【紙面の明瞭さ】	<p>○ 本文には可読性の高い独自の教科書体を採用し、その他の箇所はUDフォントを多用し、読みやすく、見やすく、間違えにくい工夫をしている。</p> <p>○ 図や表、グラフでは、カラーバリアフリーに配慮し、色調の違いだけでなく、模様や形、線種などでも判別できるようにしている。</p>			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会	17	教出	小学社会
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重要語句である「キーワード」を必要に応じて語句解説も加えて側注欄に掲載し、学習内容の習得ができるように工夫している。 ○ 「学習のてびき」では、学習を進めていく上で必要な資料を活用する技能を「集める」、「読み取る」、「表す」の3つの視点から系統的に習得できるよう工夫している。 ○ 「やってみよう」では、これまで学んだ知識や技能を繰り返し活用することを促すことで、それらを確実に習得できるよう工夫している。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の巻頭に、「社会的事象の見方・考え方」を明示している。また、各小単元の「まとめる」場面に「社会的事象の見方・考え方」の働かせ方のヒントが提示されており、表現活動の中で、「社会的事象の見方・考え方」を働かせながら概念的知識を獲得できるよう工夫している。 ○ 単元の内容に応じて、社会的な「選択・判断」や、地域や社会のこれからについて「構想」する場面を学習段階「つなげる」として充実させ、実生活・実社会の課題について考えたり、話し合ったりするような活動を設定している。また、SDGs、領土の扱い、防災教育等、社会に見られる今日的課題を扱っている。 ○ 単元末に「もっと知りたい」ページを設け、今日的課題等とも結びつけながら発展的・補足的に学びを深めることができるよう工夫している。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の導入では、学習問題が例示されており、「調べること」「調べ方」「まとめ方」といった調べる計画を示している。 ○ ページ毎に、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」のどの場面を学んでいるかが視覚的に分かるように示され、見通しをもち振り返りながら追究を進めることができるように工夫している。 ○ 「まとめる」ページでは、「文章にまとめる発表する、話し合う」などの多様な対話的活動の例が紹介され、思考力・判断力・表現力を育てることができるようにしている。 ○ 二次元コードから、動画やクイズ、補足資料やワークシートなどを見ることができ、主体的な学習に生かせるよう工夫している。(まなびリンク) 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の教科等との学習連携の例を「他教科等との関わり」として示し、横断的な学びを意識できるように工夫している。生活科、社会科、中学校社会科への接続をスムーズにできるようにしている。 ○ 各学年の巻頭に「社会科の学習の進め方」が明示されている。「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の問題解決的な学習の流れを視覚的に分かりやすく示している。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文には、「UDデジタル教科書体」を、本文以外でも、用途に応じたUDフォントを使用し、見やすく読みやすくなるように工夫をしている。 ○ 図や表は、カラーユニバーサルデザインに基づく配色となっている。また、資料によっては色だけでなく形や模様でも判別からもできるように工夫している。 ○ AIの技術と資料をもとに白黒写真をカラー化して掲載している。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会	116	日文	小学社会
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文や資料に出てきた、その単元を学ぶうえで不可欠な社会科用語を解説する「キーワード」コーナーを設定し、知識及び、技能を確実に習得できるように工夫している。 ○ 「学び方・調べ方コーナー」を、発達段階に応じて充実させ、「見る・調べる」、「読み取る」、「表現する」の3つの視点から、観察力・資料活用力や表現力の基礎を身に付けることができるように工夫している。 ○ 「やってみよう」を適所に設け、これまで学んだ知識や技能を繰り返し活用することを促し、それらを確実に習得できるよう工夫している。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くのページに「空間」「時間」「関係」といった調べる際の視点が提示してあり、「社会的事象の見方・考え方」を働かせながら、比較・分類したり、関連付けたりすることで知識を獲得できるよう工夫している。 ○ 小単元の「まとめる」場面に、調べたことを「白地図にまとめる」「表にまとめる」といった表現活動が仕込まれている単元があり、学習問題について追究したことをまとめる中で概念的知識を獲得できるような小単元の構成をしている。 ○ 「人権・福祉」としてユニバーサルデザインや多文化共生社会、「防災・安全」として火事を防ぐ方法等、実生活・実社会の課題について考えられるような教材が充実している。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の導入では、学習問題が例示されており、「調べたいこと」「調べ方」「まとめ方」といった学習の計画も示している。 ○ 小單元ごとに、「学習問題を発見する」「学習問題を追究・解決する」「さらに考えたい問題をほりさげる」という構成になっており、見通しをもって問題解決的な学習を展開できるように工夫している。 ○ 選択・判断もしくは多面的・多角的に考えることが求められている単元の「学習問題」の交流場面、または「さらに考えたい問題」の交流場面で漫画を使って、深い学びへ到達する児童の姿を示し、深い学びができるように工夫している。 ○ 二次元コードが示されていて、動画やワークシート、関連資料などとリンクしていたり、学び方や調べ方について確認したりできるよう工夫している。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他教科や他校種との関連付けのページを設け、生活科からの学習のスムーズな移行や小中連携を目指し、中学校での学習内容を紹介するなど接続に配慮した工夫をしている。 ○ 本文を「学習活動（技能を伴う活動）」、「学習内容（知識の内容）」、「友だちの発言（思考力・判断力・表現力等を活用した話し合い）」の三つに分けることでどこに何が書かれているかが分かり正確な読み取りができるようになっており、学習内容や学習方法が分かりやすい構成になっている。 ○ 小単元のまとまりで見たときに、この見開きでどんな能力を身に付けることができるのかが分かるように脚注インデックスで示している。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文にはUDフォント（UDデジタル教科書体）を使用し、フォントサイズを大きくすることで、読みやすいように工夫している。 ○ 図や表、グラフには、色調や色の組み合わせだけでなく、斜線やドットも使用するなど、カラーユニバーサルデザインに配慮している。 ○ 資料の図版番号の前に矢印を入れて、指している図版がどれかを明確に示し、分かりやすいように工夫している。 			

種目 社会

※「IIデータの観点」の数値は、社会で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の長を捉える参考とすること。

IIデータの観点

項目		発行者番号・略称			
		2 東書	17 教出	116 日文	
共通データ	①総ページ数	272	296	282	
	②単元数	17	15	16	
	③1ページの標準文字数	774	716	499	
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	23	21	27
		ページ数	34	31	42
		ページ割合(%)	12.5	10.4	14.9
	⑤佐賀県に関する項目	5	6	5	
	⑥写真等の数	写真	641	582	542
		図表	179	186	212
		文章資料	90	124	97
⑦指導者用デジタル教科書の有無	有	有	有		
⑧ウェブサイト等へのリンクの数	54	34	144		
種目別データ	⑨社会的な見方や考え方の視点や方法を示した説明数	65	24	28	
	⑩④の題材数のうち、説明したり議論したりする言語活動の題材数	20	14	27	

※調査対象は、発行者の第6学年の教科書。

※④（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断。

※⑥（写真）（図表）：表紙を除いて使用された写真・図表の数。ただし、複数の写真・図表を比較して活用することを目的としている場合は、1つと判断。

※⑥（文章資料）：本文中の用語の説明は除く、社会的事象への認識を深めるためのエピソードなどの読みもの読み物資料。

※⑦（指導者用デジタル教科書の有無）：令和6年4月に指導者用デジタル教科書を発刊する予定であるもの

[令和5年6月現在]

※⑨（社会的な見方や考え方の視点や方法を示した説明数）：社会的な見方や考え方の視点や方法について、具体的に示している数。

※⑩④の言語活動の充実が図られている学習（活動）の中で、説明する活動や議論する活動について、具体的に示している数。

地 図

観 点 地 図

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。
つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成したりするなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

児童の「思考力・判断力・表現力等」をはぐくむ観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、児童が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、児童の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係が明示してあるか。内容は、他の内容や他の教科等、学年、及び中学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、児童の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

- | | |
|---|--|
| 1 | 第3学年から4年間使用することを踏まえ、児童の発達段階に応じた表現・配列等の配慮がなされているか。 |
| 2 | 児童の地理的事象に対する関心を高め、活用意欲を引き出すために、どのような工夫がなされているか。 |
| 3 | 地図記号や索引、方位、縮尺などの基本的な地図の見方や使い方について、児童が理解しやすいように、どのような配慮がなされているか。 |
| 4 | 47都道府県の位置や自然災害と防災、日本と世界各国とのつながりなど、社会の学習内容との関連が図られ、児童の理解を高めるように配慮がなされているか。 |
| 5 | 地図内の表記や関連付けられた資料、図など、社会の学習だけでなく国語、英語、理科、総合的な学習の時間などの様々な教科等における学習で活用できるように配慮がなされているか。 |
| 6 | 世界地図は、各国の国旗や地球儀と関連付けるなどグローバルな視点を養うことができるように配慮がなされているか。 |
| 7 | 統計や写真、グラフなどの資料との関連が明瞭で、社会の変化や人々の生活を理解しやすいように配慮がなされているか。 |
| 8 | 地図の色彩や色調、地図中の文字や絵などは、土地利用や地形、地域の特色が読み取りやすくように配慮がなされているか。 |
| 9 | 中学校で使用する地図や一般の地図の活用につながるよう、系統性や汎用性の配慮がなされているか。 |

I 基本的観点

観点項目	教科		発行者の番号・略称		書名
	地図	2	東書		新編 新しい地図帳
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入のページでは、学校周辺の町の鳥瞰図、真上からの図、地図へと視点の変換を展開し、第3学年から第4学年、第5学年へとつながっていく地図の学習の流れに沿って学習に活用できるように構成している。 ○ 地図記号、索引、方位、縮尺、地形表現、土地利用といった基本的な地図の見方・使い方について、絵やイラストを用いて分かりやすく説明している。また、地球儀の使い方についても大きめの写真を用い、丁寧に説明している。 ○ 離島にある市町村も含め、地図で全市町村名を網羅している。 				
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ホップ/ステップ/マップでジャンプ」では、地図帳から探す・見つける「作業」の問題と、地図帳から考える「問い」の問題を70問設定し、地図を活用する知識・技能や地図から発展させて考える力など地図活用の力を向上させることができるように工夫している。 ○ 自然災害と防災のページは3ページに渡って日本列島全図を用いており、日本の地形や気候と災害との関係を考える学習ができるように工夫している。 ○ 同時代の日本と世界の様子分かるよう日本の歴史年表と対応させた、世界地図を資料として掲載している。 				
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本と世界の一般地図に続く、資料地図のページでは、多様なテーマの主題図を大きく表現し、読み取りやすく、学習のねらいを明確にして児童が理解しやすいようにしている。 ○ 索引にはチェック欄を設け、既習事項をチェックできるようにするなど、調べ学習に役立てることができるように工夫をしている。 ○ 「二次元コード」を用いたコンテンツには、白地図や地形が分かるドローン動画、クイズなどの多様なコンテンツを手軽に活用できるようにすることで、地図学習への関心・意欲が高まるように工夫している。 				
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3学年にも無理なく地図の仕組みと約束事が分かるように、地図のきまりや地図帳の使い方をまんが仕立てで表現している。 ○ 世界地図では、全ての国名を英語でも表記し、各地の代表的な動物や料理などを写真・イラストで紹介しており、外国語活動や外国語科などの他教科でも活用することができるように工夫している。 				
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地図中の文字や記号は大きく、字体も丸ゴシック系のUD書体で読みやすく工夫している。特に、都道府県の表示は赤の太字でくっきり見やすくしている。また、図や写真の説明文などは文節改行にして読みやすくなるように配慮している。 ○ 地名はすべてに、その他の文章などは第3学年配当相当以上の漢字にふりがなをつけている。 ○ 色のみによる文字や図形の判別を避け、形を変えて区別するようになっている。 ○ 多くの地名や特産物名に縁取りなどの加工をし、ほかの情報と重なっても文字が読み取りやすくなるようにしている。 ○ 地形表現に関しては、海底部の青色や平地の緑色、高地の黄土色までメリハリのある色調で表現し、明るくくっきりとした配色をしている。 				

I 基本的観点

観点項目	教科		発行者の番号・略称		書名
	地図	46	帝国		楽しく学ぶ小学生の地図帳
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「他地域や外国との関わり」等の学習に対応できるように、親しみやすいイラストを多用した日本地図・世界地図を掲載している。 ○ 縮尺を100万分の1で統一した基本図を用いることで、47都道府県の位置や形、大きさを理解することができるように工夫している。また、地域間の結びつきや各地の農林水産物、工業製品、伝統工芸品、観光地、遺跡、施設などを調べる際に、複数の縮尺地図も掲載することで、学習内容に応じて読み取りやすくなるように構成している。 ○ 生涯にわたって地図を使いこなすための基礎基本を身に付けることができるように、「地図のやくそく」「地図帳の使い方」を14ページに渡って丁寧に扱っている。 ○ 日本の領域を正しく理解することができるように、日本周辺を示す地図、領域の概念図と日本固有の島々の写真を掲載している。 				
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 持続可能な社会を実現するための考え方を育めるように、SDGsの特設ページを設けたほか、全編を通して、SDGsを学ぶ題材として活用できるように、関連する写真や図表にSDGsのアイコンを設置している。 ○ 日本で起こる自然災害の事例と、防災・減災に取り組む人々の努力を知ったり、防災マップの具体的な作り方を掲載したりして、防災意識を高めることができるようにしている。 ○ 歴史学習で活用できるように、歴史のテーマ地図や世界遺産のページを設け、歴史事象を地理的な空間の広がりや結びつけながら学習を深めることができるようにしている。 				
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「さくいん」では、都道府県名を赤太字、県庁所在地名・国名を赤字、日本の歴史地名と世界の首都名を青字、世界文化遺産・世界自然遺産を緑字にすることで、児童が調べやすくなるように工夫している。 ○ 「二次元コード」には、アニメーションによる解説やクイズ、動画やVR画像など、デジタル端末を活用した主体的な学びにつながるコンテンツを豊富に設置している。 ○ 主体的な学びを促す問い「トライ！」を11問、「地図マスターへの道」を100問設け、社会科の知識や地図の活用法を身に付けることができるようになっている。また、巻末に取り組みを記録できる「地図マスターへの道」まとめページを設け、達成感を感じながら学習を進めることができるように工夫している。 				
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報量が少ない「広く見わたす地図」→情報量の多い詳しい地図「縮尺1/100万、1/50万」→「世界地図」の順に配列し、児童の発達段階や学年の学習内容に応じて活用することができるように配慮している。 ○ 国語や音楽、外国語でも活用できるように、特別な凡例を設けたり、主要な国名と首都名、州名などに英語表記を付記したりしている。 				
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザイン（UD）を全編にわたって取り入れ、レイアウトの統一、文字やフォントの大きさ、文節改行に配慮している。 ○ すべての地名に漢字と対応する位置にふりがなを付しており、正しい知識を身に付けることができるように配慮している。また、インクルーシブ教育に対応した「手話で表す都道府県」コーナーを設けている。 ○ 地図の田や畑を美しく鮮明に表現するためにクサ色（黄緑色）を加えた5色での多色刷りにしている。また、山脈や山地の様子を立体的に捉えられるように陰影表現を描き起こしたり、田や畑、果樹園には色の下に紋様（地紋）を入れて判別しやすくしたりしている。 				

種目 地図

※「IIデータの観点」の数値は、地図で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特長を捉える参考とすること。

IIデータの観点

項目		発行者番号・略称	2 東書	46 帝国
共通データ	①総ページ数		102	132
	②佐賀県に関する項目		8	11
	③写真等の数	写真	75	67
		図表	91	107
		文章資料	3	0
	④指導者用デジタル教科書の有無		有	有
⑤ウェブサイト等へのリンクの数		36	50	
種目別データ	⑥基本図の数		43	68
	⑦地理的環境と人々の生活に関する基本図以外の地図・統計・写真等の資料の数		130	120
	⑧歴史と人々の生活に関する地図・統計資料の数		40	40
	⑨現代社会の仕組みや働きと人々の生活に関する地図・統計資料の数		18	21
	⑩作業的・体験的学習に関する記述数		86	121

※③（写真）（図表）：表紙を除いて使用された写真・図表の数。ただし、複数の写真・図表を比較して活用することを目的としている場合は、1つと判断。

※③（文章資料）：本文中の用語の説明は除く、社会的事象への認識を深めるためのエピソードなどの読みもの読み物資料。

※④（指導者用デジタル教科書の有無）：令和6年4月に指導者用デジタル教科書を発刊する予定であるもの。
[令和5年6月現在]

※⑥（基本図）：地域や地方といった場所を表す名称と縮尺が入っている地図（日本地図や地方地図、世界地図）の数。

※⑦（地理的環境と人々の生活に関する基本図以外の地図・統計・写真等の資料の数）：基本図以外の地図、統計、写真の数。

※⑧（歴史と人々の生活に関する地図・統計資料の数）：歴史に関する年表、世界遺産等の地図、統計、写真の数。

※⑨（現代社会の仕組みや働きと人々の生活に関する地図・統計資料の数）：政治、国際関係、貿易などに関する地図、統計、写真の数。

※⑩（作業的・体験的学習）：レポート作成・討論・訪問学習などの他に、教科書との関連性（教科書への書き込みを促すなど）のある作業を含めたもの。

算 数

観 点 算 数

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成したりするなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

児童の「思考力・判断力・表現力等」をはぐくむ観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、児童が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、児童の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係が明示してあるか。内容は、他の内容や他の教科等、学年、及び中学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、児童の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにするために、どのような数学的活動を示しているか。

(2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養うために、どのような数学的活動を示しているか。

(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養うために、どのような数学的活動を示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

(1) 数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象を数学的に捉え、算数の問題を見いだし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの内容や時間のまとまりを見通して学習を進められるよう構成をどのように示しているか。

(2) 学年間の指導内容を円滑に接続させるため、適切な反復による学習が進められるよう、数量や図形についての基礎的な能力の習熟や維持を図る工夫をどのように示しているか。

(3) 各学年の内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」の間の指導の関連が図れるよう、どのように配慮しているか。

(4) 指導の効果が高まるように、他教科との関連を図る工夫をどのように示しているか。

(5) 具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったり、学び合ったり、高め合ったりする学習活動について、どのように示しているか。

(6) 数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表やグラフを用いて表現する力を高めたりするなどのため、必要に応じてコンピュータなどを適切に活用することについて、どのように示しているか。

(7) プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動について、どのように示しているか。

(8) 具体物を操作したり、日常の事象を観察したり、児童にとって身近な算数の問題を解決したりするなどの具体的な体験を伴う学習をとおして、数量や図形について実感を伴った理解をしたり、算数を学ぶ意義を実感したりする機会を設けることについて、どのように示しているか。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	算数	2	東書	新編 新しい算数
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元末に、その単元での学習内容を振り返る「たしかめよう」、数学的な見方・考え方を振り返る「つないでいこう算数の目」などを設け、学習内容の理解度の確認と技能の定着を図ることができるようにしている。 ○ 教科書紙面にある練習問題をコンテンツ化し、正誤判定、ヒントや解説、正誤の履歴表示などの機能を持たせ、学習状況を的確に把握しながら、繰り返し効率的に練習問題に取り組むことで、知識・技能を確実に身に付けることができるようにしている。 ○ 復習ページ「おぼえているかな？」では、各種学力調査の分析結果を基に、つまづきが多い問題を厳選し、習熟度を維持、向上させることができるよう工夫している。 ○ 巻末に、それぞれの単元の補充問題を難易度別に掲載している。 			
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元末では、「つないでいこう算数の目」として、対話を通して単元を総括する活動を設定し、15分程度で数学的な見方・考え方の価値付けを促進している。 ○ 既習を生かして考えることを促進する吹き出しは「同じように考えると」、学習したことを基に発展的、創造的に考えることを促進する吹き出しは「それなら」、学びを生かし、自分たちで学びを切り拓くことを促進する見出しは「それなら次は？」を設定し、数学的な見方・考え方を繰り返し働かせながら資質・能力を高めることができる設計となっている。 ○ 考え方や問題解決に関わる記述は最低限に止め、児童がこれまでに培った力を発揮して解決できるようにしている。 			
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第6学年では、動画コンテンツとして単元導入前に学習動機を創出するオープニングムービーを設定している。 ○ 「今日の深い学び」では、自分の考えと他者の考えの比較・検討に主眼が置かれている。教材によっては、あえて不完全な考えを取り上げ、それを完全なものにするための考察を促したり、解決後に新たな問題を見だし、さらに追究したりする構成となっている。 ○ 自然観察、野菜価格の変動、海洋プラスチックごみといった身近なテーマと学習場面を関連付け、学習することの意義や学習内容の有用性が実感しやすくなっている。 			
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習者用の二次元コードが充実している。授業中の自力解決や集団解決、習熟のための演習、家庭学習など様々な場面で活用できるようにしている。 ○ 各学年の目次に、章ごとに関連する既習事項を示し、系統性が分かるようにしている。 ○ 「おぼえているかな？」では、知識・技能の定着を図りつつ、次の単元に関連する既習事項の振り返りができるようにしている。 			
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の前半は吹き出しや補助発問などを丁寧に設定し、中盤から後半にかけてはそれまでに育った資質・能力を発揮して問題解決できるように、あえて吹き出しや補助発問等を段階的に減少させる設計になっている。丁寧さと紙面のシンプルさを大切にしている。 ○ 重要語句を捉えやすくするため、ひと目ではっきり分かるように、太文字の使用に加えマーカーを引く工夫をしている。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	算数	4	大日本	新版 たのしい算数
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2学年以降の巻頭に児童に意識させたい数学的な見方・考え方を「算数の大切な考え方」としてまとめ、いつでも使えるように工夫している。 ○ すべての時間に学習のめあてを示し、本時の内容を明確に意識しながら学習を進めることができるように工夫している。 ○ 毎時の適用問題を豊富に掲載している。単元末の「たしかめ問題」では、用語や計算の仕方などを再確認できる「しっかりチェック」と、多くの練習問題を掲載し、基礎・基本が確実に定着するようにしている。また、各種問題は色で問題をタイプ分けし、時間調整や習熟度別指導に対応しやすくしている。 ○ 巻末補充問題「プラス・ワン」を全単元にわたって設定し、それぞれの学習内容の習熟を図ることができるようにしている。 			
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭に、様々な場面で使い分けることができる見方・考え方を「ひらめきアイテム」としてまとめている。学習を進める中で児童が獲得できるようにし、適宜児童が必要と思う場面で振り返り、活用できるようにしている。 ○ 操作活動ができるデジタルコンテンツを豊富に用意しており、容易に試行錯誤できるようにしている。 ○ 情報を読み取る力や、学習を活用する力を育成する「読み取る力をのぼそう」「学んだことを生かそう」を掲載し、各種の学力調査で課題とされている読解力・表現力・活用力などが身に付くようにしている。 			
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭には、教科書やウェブコンテンツの使い方、話し方や聞き方についての掲載があり、主体的・対話的な学びに役立つようにしている。 ○ 「じっくり深く学び合おう！」では、授業の流れ・数学的活動の流れや、発展的に考える様子の丁寧な例示などを通し、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫している。 ○ 「ふくろう先生のなるほど算数教室」では、算数への興味・関心を高めたり、算数が社会で活かされていることを実感したりすることができるようにしている。また、第1学年から第3学年では「おうちで算数」として学習したことを家庭や地域での生活にも生かすよう促している。 			
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意味の捉えにくい表現や異なる意味にもとれる表現は避け、さらに、文章を簡潔に標記し、数学的に分かりやすい表現になるように配慮している。 ○ 単元の導入「新しい学習が始まるよ」では、新たな単元に関連するこれまでの単元が系統的に示されており、つながりを意識しながら学習を進めることができるようにしている。 ○ 「たしかめ問題」では、問題に関連するページのページ数が紙面の右側に示されており、わからないときや調べたいときに振り返ることができるようにしている。 			
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読みやすい位置で改行することで、文章を読みやすく、そこから求められる数字や数式を導きやすくなるよう配慮している。 ○ イラストや写真は、興味・関心を喚起したり、親しみやすく美しいものを豊富に使用したりしている。問題の意味を理解させるための資料性も高い。 ○ 問題解決の段階を示すタグを記載し、児童が今何を学習しているか把握しやすく、安心して学習に取り組むことができるようにしている。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	算数	11	学図	みんなと学ぶ 小学校算数
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特設ページ「算数パトロール隊」において、よくある間違い例を示すとともに、気を付けるべき注意点を示している。 ○ 単元ごとの「できるようになったこと」において単元の学びを確かめられ、「まなびをいかそう」において単元の学びを生かした問題に取り組むことができるようにしている。 ○ 巻末「もっと算数」には、「ほじゅう問題」のページがあり、単元ごとに基礎・基本を習得できるようにしている。 			
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題を解決するために必要な見方・考え方を「考えモンスター」としてキャラクター化して提示し、児童が必要に応じて使ったり振り返ったりできるようにしている。 ○ 学期末の特設ページ「算数をつかって」において、これまで学んできた算数の学習内容だけでなく、その問題解決の過程で見つけた見方・考え方や、解決の仕方を活用し、SDGsをベースとした課題に取り組むことができるようにしている。 ○ 第6学年の教科書は、上下巻ではないが2冊扱いとしている。別冊の前半は、6年間の学びを「算数で見つけた見方・考え方」としてまとめなおすことができるようにしている。また、別冊の後半では、「中学校へのかけ橋」で中学校の内容に触れ、幅広い知識と教養を身に付けることができるようにしている。 			
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭で算数の学び方の説明がある。「問題」「めあて」「まとめ」「練習」「つながりの？」と1単位時間の流れが紙面で分かりやすく、問題解決の流れが示されているページもあり、主体的に学習を進めることができるようにしている。 ○ 単元の導入は、「?（はてな）を発見」のページを設け、日常生活や算数の中から、問題や疑問に思うことを取り上げ、それを解決しようと主体的に学習を進めていくことができるように単元全体を構成を工夫している。 ○ 各単元に、動画や操作、前学年の振り返り、補充・発展問題、資料など目的に応じた二次元コードがあり、児童自ら進んで考えることができるようにしている。 			
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「?を発見」では、単元の導入で、問題場面を漫画で紹介し、生活と結び付けて考えたり既習事項を振り返ったりすることができるようにしている。 ○ 1単位時間の学習が児童に寄り添った展開で進められ、「つながりの？」を吹き出しで提示し、それが次時の学習につながることで、学びの連続性を感じ取ることができるようにしている。 ○ 「ふりかえろう つなげよう」では、これまで学習してきた学年や単元を関連付けた学習を位置付けることで発展的な学習につながるようにしている。 			
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主要な問題を枠で囲んだり、重要な内容は他と形などを区別したりして、読み取りやすく、学習の妨げにならないように配慮している。また、改行によって読み取る段階でのつまずきを解消する工夫をしている。 ○ 目に優しく判別しやすい色使いになっている。また、図や表を大きく提示し、写真やグラフなどは、明確に区別できるように工夫している。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	算数	17	教出	小学算数
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の「まとめ」では、典型的な誤答がみられる問題について注意して取り組めるようにマークをつけて意識化を図り、その問題に「考えるヒント」を掲載することで、つまずきやすいポイントを意識しながら学習できるように工夫している。 ○ 単元末「ふり返ろう」は、イラストを使ったまとめや学習内容の知識を振り返る内容にしている。「たしかめよう」は、基礎・基本の定着を図る技能を確かめる内容にしている。 ○ 巻末の補充問題「ステップアップ算数」は、「きほんの問題」「ジャンプ問題」の2段階で構成しており、習熟度に応じて取り組むことができるようにしている。 ○ 巻末の「学びの手引き」や「学びのマップ」には、これまでに習得した知識や技能が簡潔にまとめられており、難しい場合にはそのページに戻ることで振り返り、基礎・基本の定着につなげていくことができるようにしている。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 質が異なる活用問題を取り上げている。単元末「たしかめよう」は単元内容の定着、巻末「算数を使って考えよう」は必要な情報を選択して解くこと、「広がる算数」は単元の学びを越えた発展的な学習という内容になっている。 ○ 単元末の「学んだことを使おう」では、自分たちの身の回りから算数を見付ける写真や話、算数を使って解決する問題が掲載され、単元の学習と日常生活をつなげることができるようにしている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の導入は身の回りにある事象を取り上げることで、児童にとって自分事として取り組むことができるようになっている。また、終末段階では、単元で学んだ内容が身の回りでのどのように使われているかを紹介するようになり、単元を通して身の回りと繋がるような構成や内容にしている。 ○ 問題発見・解決の過程を「はてな?」「なるほど!」「だったら!？」の吹き出しで問いの連続をつくることで、児童の問いや思考が連続し、主体的・対話的で深い学びが実現されるように工夫している。 ○ どの学年の巻末にも「プログラミングに挑戦」があり、児童が興味をもって主体的に取り組めるようなコンテンツがある。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読みやすい改行を意識し、条件文と求答事項を短文で区切るなど、問題文と図や式を対応させやすく工夫している。 ○ 単元のポイントとなる部分を赤の括弧で囲んでいる。また、そのほとんどに二次元コードが付いており、読み取るとその部分が映像で表現されていて、文章だけでは理解が難しい児童にとっても動画を視ることで分かりやすくなる工夫をしている。 ○ 「たしかめよう」では、問題に関連するページのページ数が紙面の右側に示されており、分からないときや調べたいときに振り返ることができるようにしている。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作業的・体験的な活動の場面では、写真を用いて動機付けしたり、作図では、連続写真を用いて手順を分かりやすくしたりする工夫をしている。 ○ グラフは水色の枠で統一されていて、細かい目盛りでも読みやすいようにしている。また、図などの枠線は黒で表現されていて、一目で分かりやすいようにしている。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	算数	61	啓林館	わくわく算数
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元に「とびらページ」を設け、既習事項を確認して新しい学習へと向かうスパイラルの構成になっている。また、「練習」「復習」のコーナーを適切に設け、基礎・基本の確かな定着を図ることができるようにしている。 ○ 児童のつまずきが多いとされる内容には二次元コードを配置し、確かな理解が図れるようにしている。また、問題演習や問題の解説動画が視聴できる二次元コードを配置し、ヒントや答えを確認しながら自主学習に取り組むことができるようにしている。 ○ 巻末に、前学年までの既習内容と現学年の既習内容を端的にまとめて掲載している。特に第6学年の教科書では、6つの観点の振り返りフローチャートが配置され、個別の定着を見取ることができ、復習や発展問題に生かすことができるようにしている。 			
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の中に「自分の力で」や「学びをいかそう」を設け、既習事項を活用して課題解決を行うことができるようにしている。 ○ 森林面積の題材を取り上げたり、「わくわくSDGs」のコーナーを設けたりして、自分たちに何ができるかを考え、日常生活に生かし、活用することができるようにしている。第6学年の「未来へのとびら」では、様々な職業に算数が生かされていることを実感できるような読み物資料を掲載している。 ○ 第2学年以上の上巻の「算数で使うことば」では、「はじめに」「次に」「だから」などの言葉を紹介し、言語活動において数学的に表現をする力が育成できるよう配慮している。 			
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が主体となって学べるように、児童自らの問いや気づきの例を「めばえ」として示し、児童から「めあて」を引き出す授業展開ができるように構成している。 ○ 各単元の「とびらページ」や「じゅんぴ」における既習事項の確認やページ内のキャラクターのつぶやきによる考えの視点などの掲載を通して、課題解決の見通しを立てたり、筋道を立てて解決の方法を考えたりすることができるような構成にしている。 ○ 単元末に「たしかめよう」「ふりかえろう」「やってみよう」のコーナーを設け、児童自らが単元全体の学習を振り返り、活用したり、深めたりする活動を通して、主体的に学習に取り組む態度を育み、価値付けることができるようにしている。 			
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目次に、章ごとに関連する既習事項を示し、系統性が分かるようにしている。 ○ 「めあて」と「まとめ」を掲載して学習のねらいや展開を分かりやすく示すとともに、数学的な考え方にマーカーを付けて強調し、価値付けるポイントが分かるようにしている。 ○ 二次元コード上部に「解説動画」「形調べ」「図のかき方」など内容が分かるようにしている。 ○ 数量の倍関係を把握するために、一貫して関係図を提示し、倍概念が理解しやすいように工夫している。 			
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主問題や重要分を枠で囲み、1文節が2行にまたがらないようにして読みやすくなる工夫をしている。 ○ グラフの判別がしやすいように、色のみでなく模様でも区別できるように工夫している。 ○ 吹き出し等で既習事項やヒントを簡潔に示し、考えの視点になるように工夫している。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	算数	116	日文	小学算数
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「次の学習のために」での既習事項の復習から始まり、単元末に2段階で確認する構成になっている。 ○ 単元前の「次の学習のために」では、前学年までの基礎的・基本的な内容を設け、二次元コードで図や類題でのヒントを見ることができるようにしている。 ○ 単元末では1段階目に「わかっているかな」を設け、児童が間違いやすい問題を取り上げている。2段階目に「たしかめよう」の中で、基礎的・基本的な内容に取り組み、振り返ることができる内容にしている。児童の苦手克服と基礎・基本の定着を図る配列にしている。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「使ってみよう」では、児童の身近に起こり得る内容について、その単元で学習したことをもとに考えるページを設置している。 ○ 巻末の「算数マイトライ」では、「しっかりチェック」「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」の3段階に分けて、個に応じて学習することのできる題材や内容を設置している。「もっとジャンプ」では、数学的な面白さを感じることができる問題を多数取り上げている。 ○ 「体育科」「家庭科」「人権教育」「環境・防災教育」など、他教科等と関連深い題材を幅広く取り入れ、日常生活と結び付けて、算数を身近に感じることができる内容にしている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 算数の学び方について、板書やノートのとまとめ方の例を提示し、学習の流れが分かるようにしている。 ○ 単元全体を通して「どんな問題かな」「考えよう」「学び合おう」「ふり返ろう」と共通した流れで構成し、「学び方ガイド」のカードを使って、主体的・対話的に学ぶことができるよう促している。 ○ 学習内容に合わせた二次元コードを設け、児童がデジタルコンテンツを使って、ヒントを確認したり動画やアニメーションを操作して考えたりすることができるようにしている。 ○ 毎時間の「めあて」の近くに、「見方・考え方」として、見通しを立てたり、筋道立てて考えたりするための着眼点を配置している。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目次に、単元ごとに関連する既習事項を示し、系統性が分かるようにしている。 ○ 「次の学習のために」では、前学年までの単元名を明記し、基礎的・基本的な学習内容を確かめやすく配置している。二次元コードには「ヒントと答え」と具体的な説明も添え、児童が取り組みやすいようにしている。 ○ 児童がつまづきやすい問題には、イラストの動物や子どもがヒントとなる視点をつぶやき、具体的な考え方の道筋を示している。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図形に使う色数を抑え、グラフの色も見分けやすい色にするなど、図版が分かりやすくなるように工夫している。 ○ 文字の線の太さも強弱をつけ、「問題」「めあて」「まとめ」の文言は太字にするなど、分かりやすい紙面になるよう配慮している。 ○ 読みやすい位置で改行したり、他の箇所と区別できるように問題文やまとめ等を囲んだりすることで読みやすくなるように工夫している。 			

種目 算数

※「IIデータの観点」の数値は、算数で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の長を捉える参考とすること。

IIデータの観点

項目		発行者番号・略称		2	4	11	17	61	116
				東書	大日本	学図	教出	啓林館	日文
共通データ	①総ページ数			269	273	254	290	272	295
	②単元数	大単元		13	13	15	12	13	14
	③1ページの標準文字数			415	362	460	416	345	398
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数		41	99	45	33	39	45
		ページ数		43	78	54	38	41	51
		ページ割合(%)		16.0	28.6	21.3	13.1	15.1	17.3
	⑤佐賀県に関する項目			0	0	2	0	1	0
	⑥写真等の数	写真		54	91	30	93	61	49
		図表		831	710	750	854	712	742
		文章資料		1	1	0	0	12	0
⑦指導者用デジタル教科書の有無			有	有	有	有	有	有	
⑧ウェブサイト等へのリンクの数			124	154	58	80	90	115	
種目別データ	⑨日常生活や社会などで算数を利用する題材数			10	15	11	9	8	17
	⑩ノートのとり方や話し合いの仕方などの学び方を示したページ数			7	14	10	8	8	9
	⑪発展的な学習内容を取り扱った題材数			7	19	16	13	12	11
	⑫コンピュータ等の活用の数			4	0	5	0	0	6
	⑬付録の数			3	3	3	1	1	2
	⑭プログラミングを体験する教材数			1	2	1	0	1	1

※調査対象は、各発行者の6年生の教科書

※①（総ページ数）：口絵や折り込みも含めて合計したページ数

※③（標準文字数）：各者共通の内容「等しい比、比を簡単にする」の2ページの平均総文字数

※④（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断

※⑥（写真等の数）：大きさの大小は問わず1つと数え、内容の理解を助けるための写真、図表、文章資料の数

※⑦（指導者用デジタル教科書の有無）：令和6年4月に指導者用デジタル教科書を発刊する予定であるもの

[令和5年6月現在]

※⑨（日常生活や社会などで算数を利用する題材数）：算数の学習内容の活用を図る題材（問題）として各者が位置付けている題材（問題）数

※⑩（ノートのとり方や話し合いの仕方などの学び方を示したページ数）：コンピュータの活用の仕方も含む

※⑪（発展的な学習内容を取り扱った題材数）：学習指導要領を超えた内容

※⑫（コンピュータ等の活用の数）：電卓やコンピュータが有効に活用できる問題に付いている電卓マークやコンピュータマークの数

※⑬（付録の数）：巻末の綴じ込み付録の数

理科

観 点 理 科

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成したりするなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

児童の「思考力・判断力・表現力等」をはぐくむ観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、児童が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、児童の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係が明示してあるか。内容は、他の内容や他の教科等、学年、及び中学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、児童の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

- (1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするために、どのような配慮がなされているか。
- (2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養うことについて、どのような配慮がなされているか。
- (3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養うために、どのような配慮がなされているか。

2 教科の内容（領域）との関連

- (1) 問題を見だし、予想や仮説、観察、実験などの方法について考えたり説明したりする学習活動、観察、実験の結果を整理し考察する学習活動、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする学習活動などを重視する言語活動がどのように示されているか。
- (2) プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動について、どのような場面や配慮が示されているか。
- (3) 生物、天気、川、土地などの指導に当たり、野外に出掛け地域の自然に親しむ活動や体験的な活動を多く取り入れるとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うようにすることについて、どのような工夫や配慮が示されているか。
- (4) 天気、川、土地などの指導に当たり、災害に関する基礎的な理解が図られるようにすることについて、どのような工夫や配慮が示されているか。
- (5) 個々の児童が主体的に問題解決の活動を進めるとともに、日常生活や他教科等との関連を図った学習活動、目的を設定し、計測して制御するという考え方に基づいた学習活動が充実するようにすることについて、どのような工夫や配慮が示されているか。
- (6) 博物館や科学学習センターなどと連携、協力を図りながら、それらを積極的に活用することについて、どのような工夫や配慮が示されているか。
- (7) 観察、実験の指導に当たり、どのような事故防止の配慮が示されているか。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	理科	2	東書	新編 新しい理科
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新出語句については太字とアンダーラインで示すことで知識の習得を促している。 ○ 巻末の「理科の調べ方を身につけよう」に、器具の安全な使い方や理科室の使い方、学習の仕方など、観察・実験の場面で確認できる資料を掲載している。 ○ 単元末の「たしかめよう」では、基本的な知識・技能だけでなく、思考・判断・表現の観点到に沿った問題を掲載している。 ○ 「思い出そう」を活用することで自らの定着度を自己評価することができるようにして、児童が家庭学習に取り組みやすいようにしている。 			
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実生活と学習内容の関連については、小単元末に「広げよう！理科の発想」として、生活場面の提示と学習内容に関連付けた問いかけを通して、発想を広げることを行なっている。また、単元末の「理科の世界探検部」では、社会や生活とのつながりを実感したり、キャリア教育・STEAM教育・SDGsとの関連に気付いたりできるコラムを掲載している。 ○ 単元末のまとめについては、「考えよう」に学んだことを生かして考える内容を掲載したり、二次元コードによる「理科の広場」に読み物や活動を掲載したりすることを通して、学びを広げることを行なっている。 			
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元導入部分には、映像資料やキャラクターの会話を通して考えを焦点化し、問題を見いだすことができるようにしている。また、小単元ごとに「問題をつかもう」「計画しよう」「考えよう」を設定し、活動の見通しをもたせることを行なっている。 ○ 学習過程については、問題・観察（あるいは実験）・まとめを大きく表示し、学習過程とそこで行う活動とを矢印でつなぐことで、活動のまとまりと流れを意識した構成にしている。 ○ 話し合いを促す場面や、話し合いをサポートするコンテンツを多く用意している。 ○ 二次元コードによる「理科ノート」や「理科の広場」では、児童自身が自分の考えや興味に合わせてコンテンツを選択し、活動できるようにしている。 			
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭では、各領域で働かせる「理科の見方・考え方」や学ぶ内容の見通しをもつページを設け、巻末では、「ふりかえろう」で、1年間で学んだことを振り返ることができるようにしている。 ○ 随所に「思い出そう」を設け、下位学年までの理科で学んだ内容を想起できたり、他教科の既習内容や生活経験との関連を図りながら学ぶことができたりするように工夫している。 ○ 理科の用語については、意味が理解しやすいように、上位学年で学習する漢字であっても、特別に振り仮名をつけて使用しているものがある。 			
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ A4判を採用している。 ○ 紙面に「1段組み」を採用している。問題解決のステップごとの区切りがはっきりしているため、自然な目線の流れで読み進めることができる。 ○ 各項目間の行間を広く取り、読みやすく理解しやすいように配慮している。 ○ 危険マークを付け、禁止事項とその理由を赤字で強調して示している。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	理科	4	大日本	新版 たのしい理科
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新出語句については太字で示すことで知識の習得を促している。 ○ 巻末の「使い方を覚えよう」に器具の使い方を、まとめて掲載し、正しい使い方を覚えて安全に観察や実験ができるように工夫している。 ○ 「確かめよう」・「ふり返ろう」を単元末に設定し、その単元で習得した知識及び技能の定着を図ることができるようにしている。 ○ 「りかのたまてばこ」・「サイエンスワールド（発展）」などの資料には、家庭で見られるものや使われているものについての内容が豊富にあり、家庭で読んで話し合うことなどで学習を深めることができる。 			
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 深い学びにつなげるために、既習事項を基に別の問題に取り組む「深めよう」を設定したり、単元末の「学んだことをいかそう」で記述問題を設定したりしている。巻末には活用問題に取り組むことができるように、「チャレンジ問題」が用意されている。 ○ 実生活と学習内容の関連については、「結論」の後や単元末に「理科のたまてばこ」として文章や動画の資料を掲載し、興味を引く話題などを多く盛り込んでいる。 			
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入部には、「問題を見つける」を設定し、自然の事物・現象について写真や提示実験の写真などを配置し、問題を具体的に見だしやすくしている。また、キャラクターにより理科の見方につながる着目点を示し理科の見方を働かせて問題を見出したり、結果から考察を導き出したりできるようにしている。 ○ 学習過程については、【問題を見つける→問題→予想→計画→実験→結果→考察→結論】の流れで構成され、見通しをもって問題解決活動ができる。また、単元末の「ふり返ろう」で、今後の学習や生活に生かしたいことを考える活動ができるようにしている。 ○ 指導者用デジタル教科書の連携機能により、授業支援システムを導入しなくても、児童は成果物をオンラインで提出することができる。 ○ 第4学年ではバルーンや鳥栖市、第5学年では巖木ダム、佐賀バルーンミュージアム、第6学年では水車の里（神崎市）など、佐賀県に関する資料を取り上げており、児童の興味・関心を引き付けるものとなっている。 			
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の興味・関心、他教科や領域間の内容のつながりを考慮し、相互の関連を図って児童が見通しを持った学習を展開でき、扱いやすい構成となるように配慮している。 ○ 文章は、発達段階を考慮して簡潔で分かりやすい表現を用いて、児童が読みやすいように配慮している。 ○ 巻末に他教科との関連する内容をまとめて示し、他教科での学習内容を生かし、横断的な深い理解につなげることができるようにしている。また、単元内の文章資料として道徳教育との関連も図っている。 			
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ A4判を採用している。 ○ 写真は、学習意欲を喚起できるように、直接見ることの難しいダイナミックな自然の姿や、日常生活でよく目にする身近なものを精選して掲載している。 ○ 色彩は鮮明にしている。 ○ 安全に配慮する必要がある場面ごとに、マークと赤字で強調して注意事項を示している。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	理科	11	学図	みんなと学ぶ 小学校理科
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新出語句は太字で示している。巻末には「大事な言葉」としてまとめることで知識の習得を促している。 ○ 巻末の「考えよう調べよう」に、観察や実験の仕方、実験を安全に行うための理科室の使い方と器具の使い方等を掲載している。 ○ 単元末には「ふりかえろう」が設けられており、重要語句の確認や活用問題を行い、理解度を確かめ、学び直すことができる。 ○ 書籍の紹介や、科学館や博物館の積極的な利用を促すことなどにより、家庭学習でも生かすことができるように配慮している。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元末の「学びを生かそう」では、生活の中の自然事象を題材に取り上げ、相手を意識した説明活動を取り入れることで、行ってきた実験や観察の意味が分かり、深く理解することに促している。 ○ 小単元末の「やってみよう」では、学習内容を生かしたものづくりなどを紹介し、試行錯誤をしながらおもちゃ作りをしたり、その仕組みを説明したりする中で、学習したことを使っていき、学びを振り返ることをねらっている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元導入部分には、映像資料やキャラクターの会話を通して考えを焦点化し、問題を見いだすことができるようにしている。また、小単元ごとに学習過程を「問題をみつけよう」「予想」「計画」「観察（あるいは実験）」「結果」「考察」と細かく設定し、活動の見通しをもたせることをねらっている。 ○ 学習過程については、問題・観察（あるいは実験）・わかったことを大きく表示し、学習過程とそこで行う活動とを矢印でつなぎ、活動のまとまりと流れを意識した構成にしている。 ○ 本文中の考察や巻末の「考えよう調べよう」で、多様な学び方を提示し選択できるようにし、児童が自分で学習する場面や友だちと協力しながら学びを深めていく場面等を設定することで、子供の主体性を伸ばせるように配慮している。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導要領で示された系統性を踏まえ、発達段階に応じて問題解決の流れを重視した構成になっている。 ○ 発達支援センター監修のもと、作業を細かく分解したり短い文と写真を対応させて見てわかるようにしたりするなどの配慮をしている。 ○ 当該学年において取扱いが前後することが予想される内容に関して、紙面に丁寧な説明を入れ、積極的に理科で扱うことができるようになっている。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ A B判を採用している。 ○ 「目で追いやすよう縦の位置でバーでつなぐ」、「確認がしやすいようチェックボックスを設ける」などの、分かりやすいレイアウトを使用している。 ○ 印刷は文字・写真・図版いずれも鮮明で、特に、写真や資料画は実物に忠実な再現性に優れている。 ○ 観察・実験では、注意マークを記載するとともに、火傷をしたとき、薬品がついたときなどの、活動中に起きると考えられるものについての注意と対応を明記している。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	理科	17	教出	未来をひらく 小学理科
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新出語句については、目立つように黄色で網掛けをし、知識の習得を促している。 ○ 基礎的・基本的な技能の確実な定着のために、巻末に「使い方・調べ方」を設け、器具や装置などの取り扱いの詳しい解説を掲載し、繰り返し参照して確実に定着できるように配慮されている。 ○ 各単元末に、単元で学んだことを簡潔にまとめた「ふり返ろう」や評価問題「確かめよう」を設け、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できるように配慮されている。 ○ 「まなびリンク」のコンテンツ利用により、家庭での学習を行うことができるように配慮されている。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実生活と学習内容の関連については、学んだことに関係のある身の回りの話を「科学のまど」に掲載したり、「資料」として文書資料を掲載しており、実生活に即したものと児童の興味を引く話題などを盛り込んでいる。 ○ 深い学びにつなげるために、「わかったこと」のすぐ後に、さらに詳しく調べるための実験や観察のための「チャレンジ」を設定したり、学習に役立つ「資料」を設定したり、学習内容を生かして考える「学びを広げよう」を設定したりしている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習過程を、【問題をみつけよう→問題→予想→計画→観察・実験→結果→結果から考えよう→結論】流れで構成し、キャラクターによる対話場面や吹き出しによって、見通しをもったり、問題を見いだしたり、考えたりしながら、主体的に問題解決活動ができるように工夫している。 ○ 探究の過程について、各学年で中心となる考え方につなげるための話型を示し、協働学習のサポートをしている。 ○ 二次元コードの読み取りによる動画等で実験方法や結論の解説を視聴することができ、個別最適な学びのサポートをしている単元もある。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の初めに学習の系統を「学習のつながり」で示したり、問題を解決する際に活用したい既習内容を「思い出そう」で示したりして、児童が系統的に学習を進められるように配慮されている。 ○ 本文や読み物は親しみやすい敬体で、児童が主体的に取り組む観察・実験などは常体で記述し、平易で簡潔、正確に表現されている。 ○ カリキュラムマネジメントの視点から、他教科の学習を理科と関連付けて教科横断的に扱うことができるようにしている。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ A4変型判を採用している。 ○ 大きな扉写真を使い、児童の興味を高める身近な現象を提示し、主体的に学習を始められるようにしている。 ○ 印刷に当たっては、イラスト、写真が正確な色彩で再現され、児童が親しみやすく、意欲をもって学習できるように、細部にわたって配慮されている。 ○ 観察や実験を安全に実施することができるように、「危険」「注意」の2区分のマークを使って、注意喚起している。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	理科	26	信教	楽しい理科
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新出語句については、太字で示すことで基礎的・基本的内容の定着を促している。 ○ 安全な観察・実験を行うために、「楽しい理科室」のページを巻頭に設け、器具の正しい使い方や理科室での配置について確認できるようにしている。 ○ 単元での学習を整理してまとめる場として「ふりかえろう」のページを設定し問題を見いだすことから問題解決までの一連の過程を振り返り、基礎的・基本的な内容の確かな理解と定着を図ることができるようにしている。 ○ 書籍の紹介や博物館の利用を促すことなどにより、家庭学習でも生かすことができるように配慮している。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実生活と学習内容の関連については、小単元に「しらべてみよう」の欄を掲載しており、児童に身近な自然の事物・現象を教材化し、日常生活との関わりを深める工夫をしている。 ○ 深い学びについては、「やってみよう」として、学習中での観察・実験とは、別の方法によって事象を調べたり、考察を深めたりして、多様な追究方法を体験することができるように工夫している。 ○ これから学習する単元に関連する既習事項がある場合は、「思い出そう」のマークを示し、関連する学年、単元名、学習事項示し、写真と分かりやすい文で示している。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の最初の見開きページでは、地域の特色のある身近な自然の事物・現象を、写真や挿絵などで印象的に示し児童が問題を見いだしやすい工夫をしている。 ○ 単元の初めに見いだした問題を継続的、主体的に追求できるように、それぞれの学習活動場面で観察カードの記述やキャラクターの吹き出しの言葉に具体性を持たせている。 ○ 「方法を考えてみよう」のマークで示された内容は、児童が観察・実験を行う際に、問題解決を図るための根拠のある予想や解説、それらを確認するための方法を児童自らが発想できるように文末表現を疑問形で示す工夫をしている。 ○ 単元の主教材に直接触れるなどして、気付いたことや疑問に思ったこと、既習事項や既有経験を想起して話し合う活動を設定している。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元に関わる内容で、児童の発達段階に適合する教材であるが学習指導要領に示されていない内容については「はってん」の学習とし、学習する校種、学年を示している。 ○ 見開きページでは、連続した表現となるような構成を取り入れ、児童の追究意識や意欲が持続的に高められるように工夫している。 ○ キャラクターを登場させ、気付きや疑問、考えのヒント、観察・実験のポイント、次の追究につながる視点などを吹き出しで示し、問題解決の道筋を捉えやすくしている。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ AB判を採用している。 ○ 児童が、自然の事物・現象に関心を持ち、問題意識を高め、追究の見通しがもて、追究の結果を見返すことができるような、写真・絵図・イラストなどを随所に取り入れている。 ○ 学習上の安全保持に関わることについては、オレンジ色で注意マークと注意文を示して、危険防止が図れるようにしている。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	理科	61	啓林館	わくわく理科
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新出語句については太字で示すことで、知識の習得を促している。 ○ 適所に「器具の使い方」についてのページを設け、基本的な器具の使い方を丁寧に解説し、基本的な知識・技能を習得できるようにしている。 ○ 単元末の「たしかめよう」では、単元の基礎・基本の定着を図る問題を掲載し、理解度に応じて解説動画「スマート解説」を視聴できるようにしている。 ○ 「まとめノート」・「活用しよう」等、タブレット型端末を活用した家庭学習が行えるよう配慮している。 			
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実生活と学習内容の関連については、「まとめ」のすぐ後に「理科の広場」や、小単元末に「くらしとリンク」の文章資料を掲載しており、実生活に即したものや実社会と関連した話題を盛り込んでいる。 ○ 深い学びにつなげるために、単元末に「もう一度考えてみよう」を設定し、単元導入の「はじめに考えよう」と同じ問いについて再考できるようになっており、単元全体を振り返って、自己評価や相互評価ができる工夫をしている。 			
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の導入部には、第3・4学年では「問題をつかもう」、第5・6学年では「はじめに考えよう」を設定し、文字やイラストによる自然の事物・現象に対し、吹き出しによって話し合う様子などから、問題を具体的に見だしやすくしている。 ○ 学習過程については、【問題をつかもう→問題→予想・計画→実験→結果→結果から考えよう→まとめ→もっと知りたい】とラインでつないでいる。特に、結果（写真・イラストと文）→結果から考えよう（キャラクターによる吹き出し）→まとめの過程を丁寧に扱っている。 ○ インタラクティブなコンテンツで児童が操作をしながらICTを活用できる。 ○ 巻末資料には、「かく」、「伝える」、「話し合いの仕方」、「施設の利用」、「理科につながる算数のまど」がそれぞれ具体例とともに示されている。また、「ものづくり広場」では学習内容を生かしたものづくりが2～4項目掲載されており、参考資料が豊富である。 			
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「これまでの学習をつなげよう」や「思い出そう」で、複数の単元や学年にまたがる学習内容を整理し、関連付けて考えることができるようにしている。 ○ 文字入りのマーク、文章の意味改行など、特別支援教育の専門家の監修のもと、すべての児童が支障なく、落ち着いて学習に取り組めるように配慮している。 ○ 「理科につながる算数のまど」では、既習の算数の内容を、理科の学習の具体例で取り上げ、算数との連携を図っている。 			
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ AB判を採用している ○ 児童が主体的に取り組む写真、自然のすばらしさを伝える美しい写真や、精密に描かれた自然や科学のイラストを多数掲載し、児童の興味・関心を高め、主体的な活動を促している。 ○ 観察・実験では、「注意」マークと注意文や、文字とアイコンを組み合わせた視覚的に分かりやすい「安全」マークで、注意喚起を行っている。 			

種目 理科

※「Ⅱデータの観点」の数値は、理科で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の長を捉える参考とすること。

Ⅱデータの観点

項目		発行者番号・略称		2	4	11	17	26	61
				東書	大日本	学図	教出	信教	啓林
共通データ	①総ページ数			200	232	232	224	188	216
	②単元数	大単元		9	11	10	9	10	10
	③1ページの標準文字数			1089	972	694	1035	759	607
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数		46	26	52	35	55	36
		ページ数		105	81	134	103	113	101
		ページ割合(%)		52.5	34.9	57.7	45.9	60.1	46.7
	⑤佐賀県に関する項目			0	2	0	0	0	2
	⑥写真等の数	写真		405	412	523	337	328	412
		図表		231	237	258	198	178	251
		文章資料		23	42	40	42	26	35
⑦指導者用デジタル教科書の有無			有	有	有	有	有	有	
⑧ウェブサイト等へのリンクの数			120	147	138	65	74	91	
種目別データ	⑨観察、実験の数	必修		31	32	28	28	50	26
		参考		6	16	21	6	15	1
	⑩自由研究のページ数			2	2	2	2	4	2
	⑪安全に関する記述			39	41	45	40	33	30
	⑫理科学習の流れに関する記述			2	2	1	1	2	2
⑬日常生活に関する内容			24	25	25	19	12	25	

※調査対象は、各発行者六年生の教科書

※③（標準文字数）：1ページ内の本文が、記載できる文字数

※④（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断

※⑤（佐賀県に関する項目）佐賀県に関する記述や写真の数

※⑥（写真）：図表や文章資料に含まれない写真の数

※⑥（図表）：通し番号がついている図や表の数

※⑦（指導者用デジタル教科書の有無）：令和6年4月に指導者用デジタル教科書を発刊する予定であるもの

[令和5年6月現在]

※⑨（必修）：実験1や観察1など、児童が必ず行う観察、実験の数

※⑨（参考）：必修と自由研究を含めない観察、実験の数

※⑩（自由研究）：自由研究が記載されているページ数

※⑪（安全に関する記述）：決められた記号等で標記している観察、実験の安全に関する記述数（まとまりでカウント）

※⑫（理科学習の流れに関する記述）：理科学習の進め方に関する内容が記載されているページ数

※⑬（日常生活に関する内容）：文章資料の中で、理科の学習内容と日常生活との関連がみられる数

生 活

観 点 生 活

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成したりするなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

児童の「思考力・判断力・表現力等」をはぐくむ観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、児童が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、児童の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係が明示してあるか。内容は、他の内容や他の教科等、学年、及び中学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、児童の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

(1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにするために、どのような具体的な活動や体験を示しているか。

(2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにするために、どのような具体的な活動や体験を示しているか。

(3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養うためにどのような具体的な活動や体験を示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

(1) 児童が具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自分と地域の人々、社会及び自然との関わりが具体的に把握できるように、どのような活動や配慮を示しているか。

(2) 児童の発達の段階や特性を踏まえ、2学年間を見通した学習活動をどのように設定しているか。

(3) 動物や植物への関わり方が深まるよう継続的な飼育、栽培をどのように設定しているか。

(4) 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするために、どのような配慮を示しているか。

(5) 地域の人々、社会及び自然を生かすとともに、それらを一体的に扱う学習活動をどのように示しているか。

(6) 身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法により表現し、考えることができるようにすることについて、どのような配慮が示されているか。また、このように表現し、考えることを通して、気付きを確かなものとしたり、気付いたことを関連付けたりすることができるようにどのような工夫や配慮が示されているか。

(7) 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができるようにするため、見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動をどのように示しているか。

(8) コンピュータなどの情報機器について、その特質を踏まえ、児童の発達の段階や特性及び生活科の特質などに応じて適切に活用する活動をどのように示しているか。

(9) 具体的な活動や体験を行うに当たっては、身近な幼児や高齢者、障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことができるようにすることについて、どのような配慮が示されているか。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	生活	2	東書	どきどき わくわく 新編 あたらしい せいかつ 上 あしたへ ジャンプ 新編 新しい 生活 下
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活面や安全面で身に付けてほしい事項、対象への働きかけ方について手帳や図鑑といった形で取り扱っており、生活上必要な習慣や技能の習得ができるように配慮している。 ○ 児童の学習カードや板書の例を掲載することで、学習の中で気付かせたいことや授業の様子をイメージしやすくしている。 ○ 自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさに、児童が自ら関わり気付くことができる写真やイラストを多く掲載している。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 明示されている多くの単元構成が、対象との出会い、対象との関わりの中での活動の見通し、活動の工夫、気付きの共有、振り返り・表現活動という形で作られており、生活科の学び方が身に付くような学習過程が徹底されている。 ○ 多様な表現活動例を掲載し、児童の気付きの質を高めることができるようにしている。また、国語科や算数科の単元名をページの右端へ掲載するなど、他教科等と関連した学習に取り組むことができるようにしている。 ○ 単元終末の「学びをふかめる」において、個別の気付きを関連付けたり、対象への働きかけ方を示唆したりするような場面がイラストで提示されており、気付きの質を高める手立てとなっている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元冒頭のページにおいて、児童が生き生きと活動する様子や、五感を刺激し、高揚感をもたせたりするような写真を掲載することで、児童の意欲を喚起している。 ○ 児童や指導者が活動の見通しをもちやすいように、イラストで学習過程を明示しており、児童の主体的な活動や試行錯誤を促すような配慮をしている。 ○ 小単元で主に育成を目指す資質・能力をマークで明示し、評価規準を明確に示すことで、児童の学習意欲を高められるようにしている。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上巻冒頭の「がっこう せいかつ すたあと」で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的な姿を示したり保護者向けメッセージを掲載したりすることで、幼児期との円滑な接続について、家庭と共通の手がかりをもとに連携できるようにしている。 ○ 中学年の学習への接続については、生活科での学びが理科や社会などの学習につながっていることをイメージすることができるように「つながる ひろがる」のページを設けている。 ○ 児童が活動する際の注意事項として、ページ右端に「やくそく」として、危険な生き物の写真や手洗い・うがいなどを呼びかける言葉を定位置で掲載している。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目立たせたい部分を浮き立たせるデザインを取り入れたり、全体を落ち着いたデザインと配色にしたりして、見せたい場所に児童の目が向きやすいように配慮している。 ○ A4判の紙面を生かし、活動の様子を見開きで分かりやすく掲載している。他社の教科書よりも大きくなっているが、二次元コードを活用し、内容を精選することで重さを軽減させる配慮をしている。 ○ イラストの黒板の端に学習の流れを示したボードを掲示し、ユニバーサルデザインに配慮した学習の様子を示している（下巻で顕著）。 			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	生活	4	大日本	新版 たのしい せいかつ 上 だいすき 新版 たのしい せいかつ 下 ひろがれ
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小单元ごとに、「きもちマーク」の記入があることで、入学直後の児童が無理なく振り返りができるようにしている。また、繰り返し記入することで、振り返りの定着にもつながる。 ○ 「せいかつことば」のコーナーを設け、児童の語彙力向上とともに、豊かな表現力の育成、表現活動の充実を図ることができるように工夫している。 ○ 特設ページ「がくしゅうのどうぐばこ」に豊富な資料を掲載し、活動に即した基本的な知識や技能の習得を図っている。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャラクターや教師の投げかけに気付きの質を高めるヒントを示し、児童が考え、気付きの質を高めることができるように工夫している。 ○ 活動中や活動後には、身体表現やカード、劇化など様々な表現方法が例示され、相手意識や目的意識に基づいた表現方法を選択することができるようにしている。 ○ 児童の言葉を引き出すことができるように、話型を示したり「がくしゅうどうぐばこ」のページへ誘導したりする掲載の工夫をしている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入の意欲付けに効果的だと思われるところには動画を入れ、児童の興味・関心を引くように工夫している。 ○ 創造性を育むような紙面の構成が考えられている。特に、上巻 82 ページでは、モノクロ写真を掲載することで、想像する楽しさ、実際の色を知る楽しさを引き出そうとしている。 ○ 長期にわたる栽培活動では、思いや願いに立ち戻ることで、児童の意欲の継続を図ることができるように配慮している。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見つけた生き物や草花の名前など、イラストに加え写真や動画も見ることができるようにウェブコンテンツの資料が準備され、具体的によくわかるよう支援している。 ○ 季節の流れに沿った大单元構成で、児童の意識に沿って無理なく季節と活動を結び付けることができるようにしている。 ○ 生活科を中心としたスタートカリキュラムの編成が可能となるよう、上巻冒頭部分では、合科的・関連的な指導や弾力的なカリキュラム編成ができるように他教科マークを記載している。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大单元の導入は、2 ページにわたるダイナミックな写真や絵を有効に使い、児童の興味・関心を高め、思いや願いをもって意欲的に取り組むことができるように配慮している。 ○ 各見開き内に具体的な課題が提示されていることで、児童にとって分かりやすく、課題意識を明確にもって活動できるようにしている。 ○ ウェブコンテンツの活用場面、タブレットなどの活用場面を具体的に示すことで、児童が ICT を効果的に使用できるようにしている。 			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	生活	11	学図	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 上 みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 下
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元のページにおいて、一定の場所（ページ中央下付近）に学習カードを例示し、学んでほしいこと（期待される気付き、児童の思いや願い）が捉えやすくなっている。 ○ 児童の自己決定の場を大切にしており、児童が自分の願いや思いに合わせて、対象や活動を選択し、働きかけていくといった活動例が豊富に示されている。 ○ 「もくじ」のページでは、各単元を学習する時期が掲載され、児童が年間活動の見通しをもつことができるように工夫している。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栽培記録や活動記録などをもとに、できるようになったことや新しい気付きを振り返る活動例を示し、児童が自分の成長を自覚できるように言語活動を工夫している。 ○ 飼育活動や栽培活動、創作活動を主にする学習では、試行錯誤や様々な関わり方を促すようなイラストを提示し、児童の思考や活動のつながりが可視化されている。 ○ 各単元の終末には、「もっと○○したいな」というページを掲載し、児童の興味・関心に応じて、学びを実生活や次の学びへとつなげる工夫をしている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の展開例が、児童の思いや願いからスタートし、児童の学習の文脈に沿ったものとなっており、低学年らしい学びが展開できるよう構成している。 ○ 「がっこうたんけん」や「まちたんけん」といった単元では、児童の思考に応じて繰り返し対象に関わることができるような授業構成を示している。 ○ 年間通して4人の児童が共に悩み喜び励まし合う学習場面が掲載され、児童の対話を促すように工夫している。また、イラストの吹き出しには、対象への気付きや疑問等がつぶさに表現されており、対象への関わりを深めることができるよう配慮されている。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「せいかつか まなびかた ずかん」という巻末ページがあり、対象への関わり方、表現方法、学習方法等が記されており、学び方の基礎を支えようとする配慮がある。 ○ 見開き右下部分に次の活動につなげようとする児童のイラストが掲載してあり、児童の思考に応じた学習過程が示されている。児童の発達や実態に応じた授業づくりができるように配慮している。 ○ 対象に働きかけるポイントや記録の書き方を示した「ものしりノート」のページを単元途中で掲載し、必要な場面で活用することができるようにしている。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵中心のカードから文字数の多いカードへと児童の発達段階に配慮した学習カードを掲載している。また、教師の参考となる支援のヒントとなるような言葉や立ち位置も掲載している。 ○ 「ものしり図鑑」や「ものしりノート」では、イラストが多用されて、ものの様子や詳細な違いが分かりやすくなるよう工夫している。 ○ 写真や学習カードの枠の角に丸みをもたせることで、児童に柔らかい印象を与え、親しみやすくする配慮をしている。 			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	生活	17	教出	せいかつ 上 みんな なかよし せいかつ 下 なかよし ひろがれ
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活科で育成する資質・能力を6つの力として小単元名の横に掲載し、児童がめあてをもって学習に取り組むことができるように工夫している。 ○ 単元に設けられた「ひんと」コーナーでは、「くらべる」「ためす」等の視点を例示している。同じ視点が繰り返されたり、新たな視点が書かれたりしていることで、見方・考え方の定着を図ることができるようにしている。 ○ 教科書全体を貫いて登場するはしごは、自己評価を示している。はしごの下には、単元のめあてが配してあり、めあてを意識した振り返りの一助となるよう工夫している。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の終末では、学んだことを表現する手段として、「絵に描く」「劇」「制作物」等の多彩な表現方法が紹介され、児童が自己決定する場を設定している。 ○ 児童が対象の多様性に気付いたり、自分の生き方について考えたりすることができるよう、学習内容に関連した様々な写真を掲載し、学習してきたことを広げたり深めたりすることができるように工夫している。 ○ 学習や日常生活で身に付けるべき習慣や技能をまとめた「ポケットずかん」が巻末に掲載され、各単元の内容を関連付けて学習できるようにしている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元末「なにをかんじたかな」のページでは、一人一人の学びを共有し、気付きをもとに考えることができるような構成にしている。 ○ 多様な種類の種を紹介している。ページをめくるごとにそれらの成長が写真で紹介されているので、児童は、自由に、育てた花について伝え合うことができる。 ○ ウェビングやXチャートなど、考えたことを分類したりまとめたりする学習活動例を掲載している。思考ツールを取り入れた板書例を示すことで、教師が指導に生かすことができるように工夫している。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末の「学びのポケット」は、他教科の内容と関連させながら学びを深めたり広げたりすることを意図して設定している。 ○ 種や苗の植え方の説明は、横から見たイラストで示してあるため、児童は具体的なイメージをもって活動に取り掛かることができる。 ○ 「単元とびら」のページの下の部分に全ての単元を掲載し、1年間の学習を見通したり、他の単元とのつながりを意識したりすることができるようにしている。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見やすく読みやすい文字を使用するとともに、文章を分かち書きで表示したり、読みやすい位置での改行を行ったりし、分かりやすくなるように配慮している。 ○ 単元の学びを生かすことを促すページとして他のページとは違ったレイアウトや配色で「もしも」と問いかけるページを設けている。 ○ 暗闇を探す道具やカメラを作って活動につなげるページ、見開きページが白黒写真からカラー写真に変化するページ等を掲載し、児童の感性をゆさぶる工夫をしている。 			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	生活	26	信教	せいかつ 上 あおぞら せいかつ 下 そよかぜ
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 季節や地域の行事に込められた人々の願いや思いを調べる活動を大切にした構成となっている。季節の変化と関わりのある地域の行事などを多く取り入れることで、地域に生まれ、地域に育っていることを深く感じることができる。 ○ 語彙力や表現力を高めるために、「端午の節句」といった季節に関する言葉や詩、季節の歌、作文などを数多く紹介している。 ○ 各単元の活動をイラストや写真を使って紹介されており、見通しをもった活動や対象に対する気付きを引き出しやすくなるような工夫をしている。 			
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ場所に四季を通して繰り返し足を運ぶ内容構成にすることで、そこでの体験を通して多様な気付きや発見の喜びを感じ、故郷への愛着が深められるように工夫している。 ○ 動植物との継続的な関わりを大切にした構成にし、2年間を通して学びの積み重ねを重視した工夫をしている。体験を基にした気付きを多様な表現方法で例示しており、児童の表現力を高めることができるように工夫している。 ○ 単元の終末部では、家庭や地域へ活動を広げたり、気付いたことを表現したりする活動が掲載されており、学びの広がりを意識した構成となっている。 			
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元初めのページにおいて対象に対する様々な働きかけをしているイラストを掲載することで、関わり方についての気付きを引き出しやすくしたり、興味・関心を感化させたりすることができるよう工夫している。 ○ 各単元名が「まぶしいなつ」「ひとつぶのたねから」「ふゆもきらきら」「はしれはしれ」のように、対象に対する疑問をもたせたり、意欲を高めたりする工夫がされている。 ○ 主体的・対話的で深い学びにつながるように、話し合い活を通じた児童の学び合いや活動のまとめにおける情報交換の場面を掲載している。 			
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動の見出しが具体的に示されているので、対象に対するアプローチの仕方や着目させたいことがはっきりしている。 ○ 伝統行事を多く取り入れ、地域独自の文化の中で、発達段階に応じて必要な習慣や技能が学べるようにイラストや写真で紹介している。 ○ 上巻では、入学期の児童の発達段階を考慮し、遊びや具体的な活動や体験を重視している。下巻では、児童自らが目的のために活動を創意工夫しながら進める活動を重視している。 			
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行事や習慣のページには家族の笑顔や地域の人々との触れ合う姿を版画で掲載し、他のページとは違ったレイアウトや配色で、児童の印象に残るようにしている。 ○ 上巻の「いつものばしょ」では、公園だけでなく町全体の季節の移り変わりも感じることができるよう紙面が構成され、季節と生活の変化を捉えやすくなっている。 ○ 児童の気付きを吹き出しで表現したり、作文で思いや願いを表現したりして児童の気付きや体験の質が高まるように工夫されている。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	生活	38	光村	
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の思いや願いを大切にしながら試行錯誤する活動や、体験活動と表現活動を繰り返しながら学びの質を高めていくよう具体的な内容を多く掲載している。 ○ 小单元ごとの目標に対応した振り返りの場「ふりかえろう」のコーナーが設けられ、思考や態度に関わる14の観点が、イラスト付きの分かりやすい言葉で提示している。 ○ 単元を通して「どんな気持ちになったかな」と、気持ちを振り返る問いかけがあり、児童が自ら学習対象についての思いや願いを考えることができるように構成している。 			
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観察カードを時系列につなげて振り返ったり、掲示物にまとめて情報共有したりするなど、言語活動の充実に向け多様で具体的な例を随所に示している。 ○ 小单元ごとに、学び方のヒントが設定されていることで、教師と児童がイメージを共有して活動に取り組むことができる。 ○ 単元ごとの振り返りのページでは、児童の発言例を精選し、児童が自分の言葉でまとめ、日常生活に生かしたり、新たな学びにつなげたりできるようにしている。 			
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 写真と吹き出しの効果を生かした学習過程が提示され、どのような観点をもって、どのように学びを深めていくのか、見通しをもって学習に取り組むことができる。 ○ 様々な価値観で考えたり学びを深めたりしている児童の姿が、ユニークな文章と絵で表現されており、一人一人が思いや願いをもちながら、協働的に学べるように配慮している。 ○ 単元の終末では、言葉、絵、動作、劇化などの多様な表現方法が紹介され、個人の思いや目的に合わせて表現活動を選ぶことができるように配慮している。 			
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目を踏まえた児童の具体的な姿を掲載することで、幼児期の経験を教師と児童が共に確認し、生活科の学びに生かしていくことができるようにしている。 ○ 大きなイラストや写真が多く配置されていることで、入学直後の児童にとっても分かりやすく、自由にイメージを広げたりすることができるものになっている。 ○ 生活科ならびに各教科等で育てたい資質・能力との関連を考慮し、相互の学習効果が高まるよう、他教科との合科的・関連的な指導のヒントを随所に示している。 			
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 低学年児童の発達段階を考慮した平易な表記・表現となっており、文字も読みやすい大ききで、手書きに近い書体を用いている。 ○ 児童に親しみのある絵本作家のイラストを使って分かりやすく、興味をもつような紙面構成がされている。特に、「よしたけさんコーナー」では、失敗しても大丈夫だというメッセージが含まれており、安心して活動に臨む手助けとなっている。 ○ 小单元は、学習の進め方がひと目でわかるように、見開き完結の構成にしている。 			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	生活	61	啓林館	わくわく せいかつ 上 いきいき せいかつ 下
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活科の学びのプロセスを考慮し、単元を、導入「わくわく」、主たる活動「いきいき」、振り返り「ぐんぐん」の3段階で構成し、探究的な学びが身に付くように構成している。 ○ 児童の学びを広げたり、深めたりするような教師の働きかけがイラストで示されており、授業で活用しやすくなっている。 ○ 児童の思いや願いが次の活動へつながるような「めくり言葉」を紙面右下に設定することで、活動が単発的にならず、児童の気付きをつなげながら、学習を進めることができるように構成している。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見つける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動や、試行錯誤したり、繰り返したりして、何度も対象と関わる活動を例示している。 ○ 活動の楽しさや気付いたことなどを言葉、絵、動作、劇化などで表現する活動を随所に掲載することで、児童が様々な表現方法を活用し、学びを深めることができるようにしている。 ○ 「ひろがる きもち」コーナーを設け、学校での学びを地域や家庭での活動につなげる促しや問いかけを掲載し、実生活や他単元との関連を図ることができるように工夫している。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元冒頭のページにおいて、幼児期の教育とのつながりや児童の思いや願いを引き出す写真や吹き出しが使用され、児童の学びのつながりを大切にしたい導入ができるように配慮している。 ○ 単元末のページにおいて、自己評価を促す項目を設けることで、自分の学びを振り返り、今後の生活や学習に生かそうとする態度を育成できるよう工夫している。 ○ 巻末の「がくしゅうずかん」に、調べ方や記録の仕方、友達との関わり方などについて掲載することで、児童が主体的に学ぶ際の手助けとなるように工夫している。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入学当初の緊張感のある児童が遊びを通して楽しく友達と関わるできるように、紙面やウェブサイト上に数多くの活動や音源を掲載している。 ○ 下巻の巻末では、生活科の学習を振り返る中で、未来に向けての夢や志をもつことができるように「3年生へのステップブック みらいにむかって」の資料を掲載している。また、保護者に向けて、生活科と今後の学びの結びつきにおいて共有できる資料となっている。 ○ 上巻から下巻へと学習が進むにつれて、遊びを中心とした学びから、より協働的で目的意識が明確な学びが展開できるように単元配列や授業構成が配慮されている。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誰もが見やすく、読み間違いが少ないような文字を使用している。また、文章を分ち書きで表示したり、読みやすい位置での改行を行ったりし、分かりやすくなるように配慮している。 ○ 「小単元名」、「本文」、「カード例」などは原則として記載位置を固定することで、児童が迷わず学習を進めることができるように配慮している。 ○ 写真や資料が鮮明で大きく、活動を楽しんでいる児童の様子が映る写真や児童の思考を促す挿絵などを掲載している。 			

種目 生活

※「Ⅱデータの観点」の数値は、生活で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特長を捉える参考とすること。

Ⅱデータの観点

項目		発行者番号・略称												
		2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出	26 信教	38 光村	61 啓林館						
共通データ	①総ページ数	120	125	128	129	104	100	128						
	②単元数	大単元		9	6	6	7	13	8	9				
	③1ページの標準文字数	223							262	55	138	224	154	179
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数		26	17	18	15	16	19	31				
		ページ数		52	32	34	28	31	33	62				
		ページ割合(%)		43.3	25.6	26.6	21.7	29.8	33.0	48.4				
	⑤佐賀県に関する項目	0							0	0	0	2	1	
	⑥写真等の数	写真		318	304	345	415	237	563	358				
		図表		0	1	0	0	1	0	0				
		文章資料		45	43	85	55	12	67	57				
⑦指導者用デジタル教科書の有無	有							有	有	有	有	有		
⑧ウェブサイト等へのリンクの数	33							46	22	32	1	13	18	
種目別データ	⑨「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」の単元数と割合(%)	4		2	2	2	4	2	6					
		44.4		33.3	33.3	28.6	30.8	25	66.7					
	⑩「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」の単元数と割合(%)	6		5	3	7	10	4	9					
		66.7		83.3	50	100	76.9	50	100					
	⑪「自分自身の生活や成長に関する内容」の単元数と割合(%)	1		1	1	2	4	2	3					
		11.1		16.7	16.7	28.6	30.8	25	33.3					
⑫気付きの質を高める交流活動の例	25							22	14	23	7	24	12	
⑬児童の興味を引き出す写真・イラストの数	109							109	144	112	165	152	83	

※調査対象は、各発行者の下巻の教科書

※③（標準文字数）：町探検後の発表会の場面を表したページの文字数

※④（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているか判断

※⑤（佐賀県に関する項目）：佐賀県に関する記述や写真の数

※⑥（写真等の数）：大きさの大小は問わず1つと数えた内容の理解をたすけるための写真、図表、文章表現の数

※⑦（指導者用デジタル教科書の有無）：令和6年4月に指導者用デジタル教科書を発刊する予定であるもの

[令和5年6月現在]

※⑫（気付きの質を高める交流活動の例）：気付きの質の高まりにつながる、教師と児童、児童と児童が互いの気付きや考えを伝え合う交流活動の例の数

※⑬（児童の興味を引き出す写真・イラストの数）：「やってみよう」「行ってみたい。」等、児童の興味ややる気を引き出す写真・イラストの数

※ 学校図書の「③1ページの標準文字数」については、児童の「たんけんカード」（文章資料）中心の紙面構成のため文字数が少なくなっている。

※ 信教出版の「⑫気付きの質を高める交流活動の例」については、自然や動物、地域の方々との関りを重視した内容構成であるため、児童の交流活動例が少なくなっている。

音 楽

観 点 音 楽

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成したりするなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

児童の「思考力・判断力・表現力等」をはぐくむ観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、児童が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、児童の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係が明示してあるか。内容は、他の内容や他の教科等、学年、及び中学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、児童の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにするために、どのような表現及び鑑賞活動を示しているか。

(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにするために、どのような表現及び鑑賞活動を示しているか。

(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うために、どのような表現及び鑑賞活動を示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

(1) 音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習をどのように示しているか。

(2) 第2の各学年の内容の「A表現」の(1)、(2)及び(3)の指導については、ア、イ及びウの各事項を、「B鑑賞」の(1)の指導については、ア及びイの各事項を適切に関連させて指導することについて、どのように示しているか。

(3) 各学年の内容の〔共通事項〕が、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、十分に指導ができるように、どのような工夫や配慮を示しているか。

(4) 音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことなどを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けているか。

(5) 音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽と関わるができるよう、指導のねらいに即して体を動かす活動をどのように取り入れているか。

(6) 児童や学校、地域の実態に応じ、生活や社会の中の音や音楽と主体的に関わっていくことができるように、どのような工夫や配慮を示しているか。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	音楽	17	教出	音楽のおくりもの
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1学年「こんにちは鍵盤ハーモニカ」では、実物大の鍵盤図を載せ、基本の運指、タンギング、簡単な旋律づくりまでを取り扱ったり、「めざせ楽器名人コーナー」へとつなげたりすることで、楽器演奏の基礎・基本の習得が図られるように工夫している。 ○ 第1学年・第2学年の巻末「楽き図かん」では打楽器の奏法を、第3学年「こんにちはリコーダー」では一音ずつのリコーダーの奏法を動画で視聴できる。 ○ 歌唱教材では、音域や長さ、歌詞の内容が発達段階に適合するように教材の選定や扱いに配慮されている。また、輪唱やパートナーソングなど、合唱の導入的な学習に配慮している。 ○ 第1学年では音の高さを、第2学年では音の長さをイラストや図で示すことで、音階や音の長さを視覚的にも理解できるように工夫している。 			
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開きごとに「音楽を形づくっている要素」を「音楽のもと」として示し、さらに中・高学年では、児童が気付いた要素などを記入する「メモ欄」を設け、音楽的な見方・考え方を働かせながら思いや意図に合わせて表現したり、言語活動などで活用したりしながら、音楽を味わって聴いたりすることができるように工夫している。 ○ 既習曲等の音階をもとにした音楽づくりができる構成にし、獲得した知識や技能を活用できるような教材配列にしている。 			
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年の巻頭に「学習マップ」を新設し、学年を通した学習の見通しを示しながら、各題材で学習する内容を分かりやすく説明している。 ○ 児童が見通しをもって主体的に学習を進めることができるように、「学びナビ」では学びのプロセスを示している。さらに、中・高学年では、「学び合う音楽」を設け、個別最適な学びや協働的な学びを促す工夫をしている。 ○ 「まなびリンク（二次元コード）」「矢印リンク」で関連する資料を参照したり、「カエルマーク」で学習を振り返ったりすることができ、主体的な学びを促す構成にしている。 ○ 第3学年以上は、巻末折込みに「リコーダーの指づかい」を掲載し、すぐに参照できることで、児童が自ら指遣いを確認し主体的に練習することができるように配慮している。 			
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他教科（国語・算数等）と関連する教材や、歌を通して外国語に親しむ教材を、「ショートタイムラーニング」コーナーとして全学年の巻末に設けている。また、高学年で、日本の作曲家（山田耕筰、中田喜直、滝廉太郎）の歌曲作品を多く掲載し、中学校で扱う内容の導入として扱っている。 ○ 全学年で『さんぼ』を取り扱い、発達段階に応じて合奏や合唱ができるようになっており、歌詞を手話で紹介することで、総合的な学習の時間と関連させたりすることができるように配慮している。 ○ 第1学年「うたってうごいてみんなでおんがく」から始まることで、就学前に親しんだ楽曲を取り扱いながら、体の動きを伴った活動に取り組むことができるように工夫し、幼児期の教育との系統性に配慮した構成にしている。 			
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 紙面全体、文字や図版については、組み合わせや濃淡の工夫、また罫線や記号・番号、文字の補助を施すなど、色覚の多様性を問わず見やすいカラーユニバーサルデザイン、紙面・デジタル画面とも、UDフォントを使用し、見やすく、読みやすくなるように工夫している。 ○ 『ふじ山』『こいのぼり』など、第3学年以上の共通教材では折込みを使った大きな紙面を使用し、より歌詞に忠実な写真を掲載することで、児童が曲のイメージを膨らませることができるように構成している。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	音楽	27	教芸	小学生の音楽
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌唱分野では、児童が歌声を重ねる楽しさや美しさを感じ取りながら合唱の技能を身に付けることができるように、学年ごとに「交互唱」、「輪唱」、「オスティナート唱」「三部合唱」などと、段階を踏んだ構成にしている。 ○ リズム感を育成するための常時活動や鍵盤ハーモニカ、リコーダーを使った常時活動（「そだてよう」）、ドレミ風船、「歌声ルーム」等のコラムを設定し、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を習得できるように工夫している。 ○ リコーダーの導入では、指の番号を示すことで指遣いを視覚的に捉えやすくする工夫をしている。また、「tu」「to」の文字表現やイラストにより、タンギングや息の長さ、強さを詳しく説明している。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習活動を「見つける」「考える」「歌う／演奏する／つくる」というマークで表し、児童がその題材で得た知識や技能を活用する流れが分かるようにしている。また、「ムーブ（学習を支えるキャラクター）」の吹き出しで、児童の発展的な学習を促すように工夫している。 ○ 第1学年や第2学年で身の回りにある音を使って即興的に音遊びをする活動を紹介したり、第6学年で身の回りにある音や音楽がもつ働きや役割をコラムで掲載したりすることで、音楽科で学んだことを自分の生活や社会に生かすことができるようにしている。 ○ 作品を尊重する大切さを考えるきっかけとなるように、第6学年「著作権について知ろう」では、音楽に関わる権利について学ぶことができるコラムを設けている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年の巻頭で「何を学ぶのか」を「学習マップ」で示し、児童が自ら見通しをもって多様な音楽活動に取り組むことができるように工夫している。また、「何が身に付いたか」を自らで確認できるように、巻末の「振り返りのページ」を設けている。 ○ 学習を支えるキャラクターの吹き出しで児童の気付きや思考を促したり、対話のヒントを示したりしている。また、二次元コードで読み取ったコンテンツにより、つくったリズムや旋律を編集・再生することができ、一人一人が試行錯誤しながら音楽づくりに取り組むことができるようにしている。 ○ 見通しをもって学習に取り組むことができるように、題材のはじめに具体的なねらいを示し、何を目標に、どのような活動を通して、何を学ぶかが一目で分かるようにしている。また、題材ごとに学習を振り返り、次の学習につながる内容を示している。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3学年から第6学年まで英語の歌を掲載したり、第4学年の国語科教材『ごんぎつね』を朗読と歌唱を合わせて取り扱ったりして、他教科との連携に配慮している。 ○ 第1学年「うたっておどってなかよくなろう」では、楽しく音楽の学習が始められるよう音楽に合わせて体を動かす鑑賞教材を設けたり、就学前に歌った楽曲を取り扱ったりしている。 ○ 第6学年では、雅楽『越天楽』についての時代背景を記載したり、「日本の古典芸能」のコラムで音楽と文化の関わりが分かるよう年表を掲載したりして、社会科との関連や中学校音楽科の学習への接続を図っている。また、鑑賞資料として様々なジャンル、演奏形態の音楽を掲載し、中学校音楽科、さらには生涯学習へとつながるよう配慮している。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉だけでは伝わりにくい音楽的感覚や知的理解、学習活動のヒントなどを、図や絵、写真で表しながら、イメージしやすくなるように工夫している。 ○ 楽譜や縦書き歌詞、活動文については、無地や単色の部分に配置したり、UDフォントを全体の9割以上に使用したり、読みやすさに配慮した工夫をしている。 ○ 1つの題材ごとのまとまりを分かりやすくし、それぞれの学年の中で各題材が目立つように、キーカラーで色分けしている。 			

種目 音楽

※「IIデータの観点」の数値は、音楽で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特長を捉える参考とすること。

IIデータの観点

項目		発行者番号・略称		17	27
				教出	教芸
共通データ	①総ページ数			83	88
	②題材数	題材		8	9
	③言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数		7	8
		ページ数		12	16
		ページ割合(%)		14.5	18.2
	④佐賀県に関する項目			0	0
	⑤写真等の数	写真		38	28
		図表		34	39
		文章資料		11	17
	⑥指導者用デジタル教科書の有無			有	有
⑦ウェブサイト等へのリンク数			24	33	
種目別データ	⑧表現の題材数	歌唱の教材数		27	24
		器楽の教材数		16	16
		音楽づくりの教材数		3	3
	⑨鑑賞の題材数			5	5

※調査対象は、各発行者の第3学年の教科書

※③（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断

※⑤（写真等の数）：写真等（写真、図表、文章資料）が掲載されているページ数

※⑥（指導者用デジタル教科書の有無）：令和6年4月に指導者用デジタル教科書を発刊する予定であるもの
[令和5年6月現在]

※⑦（ウェブサイト等へのリンクの有無）：教科書に二次元コードの記載があるもの

※⑧（歌唱の教材数）：歌唱の取り扱いがある教材数（器楽の取り扱いがある教材も含む）

※⑧（器楽の教材数）：器楽の取り扱いがある教材数（歌唱の取り扱いがある教材も含む）

※⑧（音楽づくりの教材数）：音楽づくりの取り扱いがある教材数

※⑨（鑑賞の題材数）：鑑賞の取り扱いがある題材数

图画工作

観 点

図 画 工 作

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成したりするなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

児童の「思考力・判断力・表現力等」をはぐくむ観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、児童が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、児童の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係が明示してあるか。内容は、他の内容や他の教科等、学年、及び中学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、児童の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにするために、どのような表現及び鑑賞の活動を示しているか。

(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるように、どのような表現及び鑑賞の活動を示しているか。

(3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培うことを目指し、どのような表現及び鑑賞の活動を示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

(1) 造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習になるように、どのような工夫や配慮を示しているか。

(2) 各学年の内容の〔共通事項〕が、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、十分に指導できるように、どのような工夫や配慮を示しているか。

(3) 児童が個性を生かして活動することができるようにするため、学習活動や表現方法などに幅をもたせるように、どのような工夫や配慮を示しているか。

(4) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、児童が〔共通事項〕のAとIとの関わりに気付くように、どのような工夫や配慮を示しているか。

(5) 「A表現」の指導に当たっては、活動の全過程を通して児童が実現したい思いを大切にしながら活動できるようにし、自分のよさや可能性を見だし、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにどのような工夫や配慮を示しているか。

(6) 表現及び鑑賞の活動において、情報機器を扱った活動をどのように位置付けているか。

(7) 思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、〔共通事項〕に示す事項を視点として、感じたことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理するなどの言語活動をどのように設定しているか。

(8) 材料や用具、活動場所について、安全な扱い方や事故防止の指導をどのように取り扱っているか。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	図画工作	9	開隆堂	図画工作
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭では、「図画工作の学習を通して育つ三つの力」についてキャラクターを用いて分かりやすく示している。 ○ 巻末の「学びの資料」を使って、材料や用具の扱い方に関する基礎・基本の知識と技能の習得のためのページを系統的に掲載している。 ○ 二次元コードを読み取ることで、それぞれの題材に必要な知識・技能などに関するコンテンツを確認することができるようにしている。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 題材に「タブレットたんまつで見てみよう」という項目を設け、タブレット端末を活用して作品を鑑賞し、「アイデアシート」や「振り返りカード」などを確認し、児童が自ら学習を進めることができるようにしている。 ○ 児童が様々な活動体験や材料体験を深め、自然を大切にし、環境を守っていくことの大切さに気付くような題材が設定されるなど、図画工作が身近なSDGsの活動や持続可能な社会の創造につながっていることを、学習内容との関連や発展から自然な形で示している。 ○ 伝統工芸や芸術家との出会い、イベントやお祭りなど地域とのつながりを感じる写真や造形物を掲載し、地域との連携が図られている。 ○ 題材に様々な教科に関連していることを示す「合わせて学ぼう」を掲載し、教科横断的な学びができるように配慮している。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3つのキャラクターを用いて、題材で何を感じ取り工夫すればよいか明示され、児童が自ら課題をもち、造形的な見方・考え方を働かせることができるように工夫している。 ○ 発達段階に応じて、友達と対話する写真や友達と一緒に協力して造形活動に取り組む題材を多く取り扱い、協働して作り出す活動が重視されている。 ○ 児童が見通しをもって造形活動に取り組むことができるように、どのような手順で作ればよいか具体的に示されている。 ○ 材料を探す場面や表し方を試す場面、友達と対話しながら造形活動に取り組む場面など様々な活動写真を多く掲載し、活動の意欲付けにつなげている。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児の活動の姿を掲載し、幼児教育の造形遊びとのつながりを示したり、6年生の巻末に図画工作で身に付けた力が社会でどのように活用されているかを紹介したりして、教科の発展性を考慮している。 ○ 造形活動だけでなく、材料や用具の用意や片付けについても言葉や写真、動画で分かりやすく示し、安全面への配慮を示している。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開き1ページの中に各題材の「めあて」から「振り返り」までのレイアウトが統一されていて、学びの過程が分かりやすく示されている。 ○ カラーユニバーサルデザインの観点から、教科書の内容が正確に伝わるように、紙面全体に識別しやすい配色や形状、イラストレーションの配色や写真の配置などの工夫をしている。また、鑑賞資料は、写真による光沢による見えにくさを軽減した紙面になっており、繊細な色合いや濃淡の美しさも感じ取りやすいように配慮している。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	図画工作	116	日文	図画工作
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「オリエンテーション」では、図画工作科の目標に基づく学習の3つのめあてが説明され、何をどのように学ぶかを分かりやすく伝えている。 ○ 巻末の「材料と用具の引き出し」では、児童が各学年の題材で扱う材料・用具に触れながら、安全で適切な扱い方を確認し、着実に経験を積み上げ、基礎・基本を習得できるように構成している。 ○ 二次元コードから、活動の参考になる作品や用具の扱い方、作り方、仕組みなどを見ることが出来る。 			
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図画工作の学びを生活や社会（国際理解、平和など）、SDG sなどと結び付けることで、持続可能な社会を創造することに目が向けられるようにしている。また、ICTを活用した学習が位置付けられていて、児童が見方・考え方を働かせることができるようにしている。 ○ 他教科等と関連付けて学びを深めることができるように、つながる学びと項目を設け、他教科等とのつながりを紹介している。また、同じ材料や用具に繰り返し関わったりすることができるように、題材や事例の内容に配慮している。 ○ 図画工作をもっと楽しむためのページ（教科書美術館・図工のみかた・広がる図工・アートカードを楽しもう）において、これまでの学びを活用するページが設けられている。 			
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の活動写真と完成した作品を見た児童が好奇心をもって取り組めるよう、見方・考え方を働かせながら学習する児童の姿が示されている。 ○ 見開き1ページで、左ページに「とくに大切なめあてのヒント」、右ページに「鑑賞のヒント（視点や方法）」、また巻末に「アートカード」の作成を紹介し、主体的な学びへ導き、表現と鑑賞を関連させて学ぶことができるように工夫している。 ○ 児童の写真と完成した作品には吹き出しがあり、創作活動と鑑賞のヒントにつなげている。 ○ 活動の場面ごとに「学習のめあて」「表現のヒント」「鑑賞のヒント」「振り返り」の4つの投げかけを示し、主体的・対話的で深い学びにつなぐことができるよう工夫している。 			
四【説明の平易さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各題材において、めあてに対応する写真を掲載し、活動への意欲を引き出すような題材名と簡潔なリード文、学習のめあてを設定し、児童が見通しをもてるようにしている。 ○ これまでの学びを振り返ることで、児童が学んだことを自覚し、次の学びへと生かすことができるように、幼児期及び中学校との接続ページを設定している。 ○ 参考にする作品が数多く掲載され、作り方や仕組みが分かりやすく説明されている。 			
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開き1ページで、左ページに学習活動の写真や説明、右ページに児童の作品の写真を多く載せ、鑑賞ができるように工夫している。 ○ 誰もが等しく学ぶことができるよう、コントラストや文字の背景色等、カラーユニバーサルデザインに配慮して編集している。また、作品や写真を大小のメリハリを付けて示すことで、紙面に動きをもたせ、児童の興味・関心を引き出すことができるように工夫している。 			

種目 図画工作

※「IIデータの観点」の数値は、図画工作で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特長を捉える参考とすること。

IIデータの観点

項目		発行者番号・略称		
		9 開隆堂	116 日文	
共通データ	①総ページ数		128	128
	②題材数		44	42
	③1ページの標準文字数		54	41
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	17	19
		ページ数	32	38
		ページ割合（%）	25%	30%
	⑤佐賀県に関する項目		0	0
	⑥写真等の数	写真	590	590
		図表	41	40
		文章資料	18	24
⑦指導者用デジタル教科書の有無		有	有	
⑧ウェブサイト等へのリンクの数		61	66	
種目別データ	⑨「造形遊びをする活動」の題材数と割合（%）	題材数	6	6
		ページ割合（%）	9	9
	⑩「絵に表す活動」の題材数と割合（%）	題材数	14	14
		ページ割合（%）	22	22
	⑪「立体に表す活動」の題材数と割合（%）	題材数	6	7
		ページ割合（%）	9	11
	⑫「工作に表す活動」の題材数と割合（%）	題材数	16	10
		ページ割合（%）	25	16
	⑬「鑑賞する活動」の題材数と割合（%）	題材数	2	41
		ページ割合（%）	3	64

※調査対象は、各発行者の第3・4学年の教科書

※①（総ページ数）：第3・4学年の上巻と下巻のページ数の合計

※③（標準文字数）：題材名の下にあるリード文の平均的な文字数

※④（言語活動の充実が図られている学習（活動）

※⑥（図表）：制作の参考になる図やスケッチなどの数

（文章資料）：美術作品や生徒作品、作者等についての解説文などの数

※⑦（指導者用デジタル教科書の有無）：令和6年4月に指導者用デジタル教科書を発刊する予定であるもの
[令和5年6月現在]

※⑨～⑬（題材数と割合）：割合は、総ページ数に対する割合

※⑬（「鑑賞する活動」の題材数と割合）：題材数…鑑賞する活動を発行者が明確に位置付けている題材数

家 庭

観 点 家 庭

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成したりするなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

児童の「思考力・判断力・表現力等」をはぐくむ観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、児童が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、児童の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係が明示してあるか。内容は、他の内容や他の教科等、学年、及び中学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、児童の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにするために、どのような実践的・体験的な活動を示しているか。

(2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養うために、どのような実践的・体験的な活動を示しているか。

(3) 家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うために、どのような実践的・体験的な活動を示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

(1) 衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実を図ることについて、どのように配慮しているか。

(2) コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用して、実習等における情報の収集・整理や、実践結果の発表などを行うことができるように工夫することについて、どのように配慮しているか。

(3) 生活の自立の基礎を培う基礎的・基本的な知識及び技能を習得するために、調理や製作等の手順の根拠について考えたり、実践する喜びを味わったりするなどの実践的・体験的な活動を充実することについて、どのように配慮しているか。

(4) 学習内容の定着を図り、一人一人の個性を生かし伸ばすよう、児童の特性や生活体験などを把握し、技能の習得状況に応じた少人数指導や教材・教具の工夫など個に応じた指導の充実に努めることについて、どのように配慮しているか。

(5) 家庭や地域との連携を図り、児童が身に付けた知識及び技能などを日常生活に活用できるようにどのように配慮しているか。

(6) 安全・衛生に留意することについて、どのように示されているか。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	家庭	2	東書	新編 新しい家庭
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家庭科の窓」として、「見方・考え方」が掲載され、「協力」「健康・快適・安全」「生活文化」「持続可能な社会」の4点のうち重点となる事項を示すことで、見方・考え方の視点を意識して学習が進められるようにしている。 ○ 実習のページや巻頭・巻末のページに、知識や技能のポイントを「いつも確かめよう」の囲みで示している。動画でも確認できるので、分からないところをいつでも振り返りながら活動できるように工夫されている。 ○ 調理実習では、食品の種類や切り方によって手順等を工夫する力が身に付くように、児童が調理のポイントを考えたり、確かめたりする活動が設定されている。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他教科や中学校技術・家庭と関連する学習内容にはマークがついていて、身に付けた知識・技能が系統的、教科横断的に活用できるように工夫している。特に、SDGsについては5年生の早い段階で特集ページを組み、SDGsの視点をもって学習することができるようにしている。 ○ 各題材の最後に設定されている「深めよう」の活動では、学習した内容が家庭や地域の生活につながるような例が示されている。実践の後には、友達や家族から意見をもらう言語活動を設定し、さらなる改善につながるようにしている。 ○ 長期休業の時期に家庭や地域の生活に関する課題解決を行う「生活を変えるチャンス！」のページを設定し、チェック項目や具体例を載せたり、実践の仕方を詳しく説明したりすることで、実践する際の参考にすることができるように配慮している。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各題材が「課題を発見」「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「活用・新たな課題の発見」という3ステップで示され、学習の見通しをもって問題解決的な学習が進められるようになっている。自ら課題を発見したり、解決方法について考えたりするきっかけになるように、友達と話し合う活動が多く設定されている。 ○ 3ステップのそれぞれにめあてと振り返りが設定されており、「できた」「わかった」という達成感を味わわせ、自己肯定感を高めながら学習できるようにしている。 ○ 「成長の記録」に、自己評価と「次へのチャレンジ」を記入することで、学びの記録ができる。「生活を変えるチャンス！」に結びつけることで、家庭実践を促すようにしている。 			
四 【説明の平易さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習に活用できる資料が豊富に掲載されており、具体例や説明事項が分かりやすくなるように配慮されている。 ○ 16種類のマークで資料を分類してあり、関連する知識や資料を活用できるようにしている。 ○ 題材と内容との関わりから、児童の思考過程に応じて、「話し合おう」「調べよう」「やってみよう」などの活動やその順番が工夫された構成にしている。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 字形が判別しやすく読み間違いにくいUD教科書体を使い、ユニバーサルデザインの観点から、配色及びデザインなどに配慮し、図やグラフが見やすくなるよう工夫している。 ○ 調理実習や製作実習の手順を見開きで確認したり、利き手に合わせ、実物大の写真に手を載せて練習したりできるようにしている。 ○ 動画などを確認できる二次元コードはすべて見開きのページの右上に固定され、コンテンツマークと内容の簡単な説明で分かりやすくなるよう配慮している。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	家庭	9	開隆堂	小学校 わたしたちの家庭科
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 題材の最初のページに、その題材で意識する「生活にかかわる4つの見方・考え方」を掲載し、題材を通しての見方・考え方を意識化して学習に取り組めるようにしている。 ○ 第5学年では、基礎・基本が身に付くように、第6学年では、計画的に工夫し、応用させながら生活に生かしていく力が身に付くように題材の配列を工夫している。 ○ 簡単なものから繰り返すことができるように、スモールステップの学びで、着実に知識・技能を身に付けることができるようにしている。 ○ 各ページの下部に、「豆知識」として用語の解説が掲載されており、知識の習得ができるようにしている。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ さまざまな職業の方々から児童に向けたメッセージ「キャリアインタビュー」を21名分掲載し、実生活を振り返って実践的な活動に生かすことができるようにしている。「キャリアでつなぐ、持続可能な未来」では、特集ページを組み、SDGsの目標達成への理解にもつながるように工夫している。 ○ 話し合いや思考する活動、意見を述べる活動等の言語活動が各題材に配置されており、学んだ知識や技能を生活に生かせるよう工夫されている。また、「やってみよう」という小課題を設け、学んだことを実生活に活かせるようにしている。 ○ 毎日の生活から新しい課題を見つけて解決することができるように、「課題解決のステップ（ステップ1～ステップ5）」を示している。 ○ これからの生活に生かすことができるように、学習のめあてを用いた振り返りチェックと、振り返りを記述することができるコーナーを各題材の終わりに設けている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「1. 気づく・見つける」「2. わかる・できる」「3. 生かす・深める」の3つのステップで題材設定されており、学習、手順の流れがつかみやすいようにしている。 ○ 題材の最初に、その題材を象徴する写真やイラストを掲載し、学習への意欲を高めている。また、これらの写真やイラストに関連した問いかけがページ下部にあり、自分なりの課題（マイめあて）を見つけやすくしている。 ○ 発達段階に応じて、児童が進んで話し合い、調べたことをもとに考えたことを友達や地域の人々に発表するなど、児童の主体的な学びにつながるように活動例を工夫している。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調理や製作などの実習手順図に、写真やイラスト、吹き出しを用いて、視覚的に分かりやすくするように配慮している。 ○ 家庭科以外での教科の学習事項に「関連マーク」がついており、他教科での学習と家庭科を関連付けた学習ができるよう、工夫されている。 ○ 「実習に役立つワンポイント」として、食材の切り方と大きさの目安を実物大で確認できる写真が掲載され、大きさの感覚をつかみやすいようにしている。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調理実習や製作実習の際、利き手を選んで活動できるように、ユニバーサルデザインを意識した写真を掲載し、視覚的に分かりやすくするように配慮している。 ○ 調理・製作の難易度を星の数で設定し、個々の技能や段階に応じて選択的に取り組むことができるようにしている。 ○ 調理実習や製作などの手順を見開きで大きく、横流れのデザインで統一している。 ○ 動画などを確認できる二次元コードはすべて見開きのページの右上に固定され、すべての動画コンテンツにナレーションを導入し分かりやすくするように配慮している。 			

種目 家庭

※「Ⅱデータの観点」の数値は、家庭で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特長を捉える参考とすること。

Ⅱデータの観点

項目		発行者番号・略称		
		2 東書	9 開隆堂	
共通データ	①総ページ数	150	154	
	②題材数	15	20	
	③1ページの標準文字数	241	356	
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	15	20
		ページ数	47	49
		ページ割合(%)	31.3	31.8
	⑤佐賀県に関する項目	1	1	
	⑥写真等の数	写真	262	306
		図表	119	104
		文章資料	26	32
⑦指導者用デジタル教科書の有無	有	有		
⑧ウェブサイト等へのリンクの数	69(194)	66(312)		
種目別データ	⑨内容A「家族・家庭生活」を含む題材数及びその割合(%)	4	5	
		26.7	25	
	⑩内容B「衣食住の生活」を含む題材数及びその割合(%)	10	13	
		66.7	65	
	⑪内容C「消費生活・環境」を含む題材数及びその割合(%)	1	3	
		6.7	15	
	⑫伝統に関する資料の数	16	12	
⑬安全に関する資料の数	17	23		
⑭プログラミングに関する資料の数	1	1		

※①（総ページ数）：教科書の大きさを基準とし、口絵や折り込みも含めて合計したページ数

※②（題材数）：教科書に掲載されている題材など内容や時間の大きなまとまりの数

※③（1ページの標準文字数）：東書はP46、開隆堂はP54を参照して割り出した数

※④（言語活動の充実が図られている学習）：小学校学習指導要領解説家庭編に記述されている言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断

※⑦（指導者用デジタル教科書の有無）：令和6年4月に指導者用デジタル教科書を発刊する予定であるもの
[令和5年6月現在]

※⑧QRコード及び学習コンテンツ数

※⑨（内容Aを含む題材数及びその割合）：②の題材数のうち内容A「家族・家庭生活」を含む題材数

※⑩（内容Bを含む題材数及びその割合）：②の題材数のうち内容B「衣食住の生活」を含む題材数

※⑪（内容Cを含む題材数及びその割合）：②の題材数のうち内容C「消費生活・環境」を含む題材数

⑨～⑪は、複数の内容を含んだ題材がある。

※⑫（伝統に関する資料数）：伝統に関する記述数

※⑬（安全に関する資料数）：安全に関する記述数

※⑭（プログラミングに関する資料数）：プログラミングに関する記述数

保 健

観 点 保 健

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成したりするなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

児童の「思考力・判断力・表現力等」をはぐくむ観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、児童が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、児童の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係が明示してあるか。内容は、他の内容や他の教科等、学年、及び中学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、児童の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

- (1) 保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程をどのように示しているか。また、この学習過程により、生涯にわたって心身の健康を保持増進するための資質・能力を育成することができるように、どのような工夫や配慮が示されているか。

2 教科の内容（領域）との関連

- (1) 「G 保健」に相当する授業時数が2年間で16単位時間程度となるように、適切な内容の配列や分量が示されているか。
- (2) 他学年の保健の内容との関連や運動領域との関連が図られた内容になっているか。
- (3) 保健の内容のうち運動、食事、休養及び睡眠については、食育の観点も踏まえつつ、健康的な生活習慣の形成に結び付くように、どのような配慮が示されているか。
- (4) 保健の指導に当たっては、健康の内容に関心をもてるようにし、健康に関する課題を解決する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫がどのように示されているか。

I 基本的観点

観点項目	教科		発行者の番号・略称		書名
	保健	2	東書		新編 新しい保健
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各項のステップ4「まとめる・生かす」では、学習の要点を整理することができ、基礎的・基本的内容の確実な定着を図ることができるよう工夫している。 ○ 教科書に書き込む欄を多く設けている。また、各単位時間のワークシートをデジタルコンテンツで用意している。 ○ 技能に関する「実習」ページを設けている。さらに、学びを手助けするために実験や実習などが映像で確認できるデジタルコンテンツを用いて技能をより分かりやすく身に付けることができるよう工夫している。 				
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ ステップ3「深める・伝える」で、学習したことをもとに考え、筋道を立てて説明する活動を位置付けており、習得した知識を言語活動や体験的活動等により活用することができるよう工夫している。 ○ ステップ4「まとめる・生かす」では、自分の生活を見直し、習得した知識を今後の実生活にどのように活用していくかを考えて記述する欄を設けている。 ○ 各項目末に、「共生、性の多様性、個人差への配慮」など、今日的課題を多く取り上げており、多面的な見方ができるようにしている。 				
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が学習の流れを捉えやすく、主体的に学習を進めていけるように、1単位時間の流れをすべて「気づく・見つける」「調べ・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」の4ステップで構成している。 ○ 1単位時間の学習の課題を明示しており、解決への見通しをもって学習することができるようにしている。 ○ ステップ2・3を通して、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする対話的な学びを行うことで、さらに自ら学ぼうとする主体的な学びにつながるよう工夫している。 				
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の扉ページ「つなげよう」で、他教科や学年との関連を示している。また、各ページにおいても、他教科や学年との関連について明示しており、教科横断的・系統的な学習ができるようにしている。 ○ 学習後の「資料」では「インターネットによる犯罪被害」など、今日的課題に触れており、児童の興味・関心を広げ、発展的な学習へとつなげていくことができるようにしている。 ○ 巻末に、小学校の保健の学習を振り返り中学校での学習に意欲をもたせるデジタルコンテンツを掲載している。 				
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文節改行し、文章を読みやすくするとともに、全ての文字にUDフォントを用い視認性を高めたり、色覚特性に適應するデザインにしたりするなどの配慮をしている。 ○ 写真やイラストを多く使用し、記入欄も広く、児童が書き込みやすいよう工夫している。 ○ 写真やイラストは、男女の数に偏りがないように配慮し、男女の表現も固定観念を生まないよう配慮している。 				

I 基本的観点

観点項目	教科		発行者の番号・略称		書名
	保健	4	大日本		新版 たのしい保健
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元末のまとめのページで学んだことを振り返ることができるように工夫し、基礎的・基本的内容の習得を自分で確認できるようにしている。 ○ 考える、やってみる過程で、「考えよう」「話し合おう」「調べよう」など、基礎・基本の習得に向けた様々な活動を明示している。 ○ 1つの単元につき1つずつ配置されている「もっと知りたい」で、さらに理解を深めるための参考となる資料を豊富に示している。文中に、関連のあるページを明示することで、自分で振り返ったり確認したりすることができるようにしている。 				
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題を発見する活動、課題を解決する活動、学習したことを生かす活動など、様々な活動により、思考力・判断力・表現力等が育成されるようにしている。 ○ 学習し、理解したことを毎日の生活に生かすことができるように、1単位時間の終末に「活かそう」の記述欄を設けている。また、「もっと知りたい」を設け、学習内容を探究できるようにしている。 ○ 今日の課題として、「性」の多様性、SDG s、新型コロナウイルス感染症などを取り扱っており、多角的に学ぶことができるようにしている。 				
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元はじめの「学習ゲーム」で児童が学習の課題に気づき、身の回りの生活に関係のあることだと知ること、意欲的に学習に取り組むことができるよう工夫している。 ○ 単元末の学習の振り返りでは、「明日へつなげよう」の記述欄を設け、日常生活と学習したことを結び付けることができるよう工夫している。 ○ 1単位時間の学習課題を「ここで学ぶこと」と表記し、示していることで、問題解決的な学習に取り組みやすくしている。 				
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中連携を意識し、中学校で学習する「心肺蘇生法」などを示し、学習内容をさらに深めていく中学校の保健体育を学習する際の基礎になるようにしている。 ○ 「ミニちしき」の中に、健康に関する英語のことわざや英語での会話のイラストを掲載し、外国語への興味を高めるよう配慮している。 ○ 国語、算数、生活、理科など、他教科に関連した題材を適宜取り扱うとともに、他教科に関連していることが分かるようマークで示している。 				
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料やイラスト、図表を多く使用し、脚注で「ミニちしき」として学習内容と関連する情報を提示している。 ○ 佐賀県を含む各地の写真等が使われており、児童が興味をもちやすい資料を掲載している。 ○ 表紙には、丈夫で汚れにくくなる「UVラミコート」を施したり、抗菌・抗ウイルス機能をもつ「Lock 3」を塗布したりしている。また、見やすく読み間違いにくいユニバーサルデザインフォントを使用している。 				

I 基本的観点

観点項目	教科		発行者の番号・略称		書名
	保健	50	大修館		新 小学校保健
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文の中で、特に大切な言葉について、字体を変え、太字で書き表しており、分かりやすく示し、基礎的・基本的内容が確実に習得できるようにしている。 ○ 1 単位時間の終わりに利用できる「ほけんクイズにトライ!」というデジタルコンテンツを用意しており、学んだことをクイズ形式で確認することができるようにし、楽しみながら知識の習得ができるよう工夫している。 ○ 「豆知識」で、補助的な説明を豊富に載せている。また、発展的な学習内容を資料ページに集約している。 				
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 単位時間の終わりに、自分の考えを記述する欄を設けており、自分の考えを確かめたり、友達と感想交流したりできるようにしている。「調べよう」「話し合おう」において、自己で課題解決をしたり、仲間と対話的に課題解決したりできるような学習の流れにしている。 ○ 資料に「はってん」として、各時間の学習項目で扱わなかった「発展的な学習内容」も含め、豊富に掲載している。スマホゲーム依存症や新型コロナウイルス感染症、共生社会の実現などの今日的課題を取り上げており、実生活との結びつきを感じながら学習できるよう工夫している。 ○ 単元末の「学習をふり返ってみよう」では、実生活にどのようにつなげていくかを記述する欄を設けている。 				
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の扉には、アスリートや著名人、海外で活躍する人などを紹介し、児童が興味をもって学習が始められるようにしている。 ○ 全ての単元で、3ステップで学べるように統一して学習活動を配置している。また、単元末に、学んだことを自己評価することができるページを用意している。 ○ 1 単位時間の「きょうの課題」を明示しており、児童が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫している。 				
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語、算数、生活、理科など、他教科に関連した題材を適宜取り扱うとともに、他教科に関連していることが分かるよう、マークで示している。 ○ がんを経験したサッカー選手のインタビューのように、「保健領域」と「運動領域」を関連させたコラム「体育の窓」を掲載しており、双方を関連して学べるようにしている。 ○ 写真や文章資料を数多く掲載しているため、児童の理解を深めると共に、発展的な学習へ結び付けるきっかけになるよう工夫している。 				
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習効果を高めるために掲載している写真や図表を大きく示し、見やすいよう工夫している。 ○ 文節改行し、文章を読みやすくするとともに、全ての文字にUDフォントを用い視認性を高める配慮をしている。 ○ 色覚特性に適応するカラーユニバーサルデザインを取り入れ、見やすく分かりやすい紙面になるよう配慮している。 				

I 基本的観点

観点項目	教科		発行者の番号・略称		書名
	保健	207	文教社		新わたしたちの保健
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ Mission 1 では課題を見付け、Mission 2 では課題を解決しながら基本的な知識を獲得することができるようにしている。 ○ 「学習のまとめ」として、教科書の紙面で特に大切な言葉や内容を枠囲みにしたり、確実に理解する内容部分には「ここが大事」マークを掲載したりすることにより基礎的・基本的内容が理解できるようにしている。 ○ 生活場面のイラストや写真を多く掲載することで、自らの課題として捉えることができるようにしたり、学んだ知識を生活の中に置き換えて考えることができるようにしたりして、実践的な態度が身に付くようにしている。 				
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ Mission (学習内容) と Stage (学習活動) で構成し、1時間の学習は、目標からまとめ、実践へつなぐことができるように工夫している。 ○ 1 単位時間の終わりには Mission 2、3 において「もう一步先の自分に」で記述する活動を取り入れ、より深い知識を身に付け、実践することができる内容をキャラクターの吹き出し等で示し、実生活につなげることができるよう工夫している。 ○ 大単元の終わりには「わたしの○○宣言」として、児童が習得した知識を自分の生活に生かせるようにすると共に、対話的な学びをできるよう工夫している。 				
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 単位時間のはじめに学習課題を明示し、話し合いや調べ活動等を通して課題解決できるようにしている。 ○ 学習活動の中で、自分の生活を振り返るチェック活動や記述活動を設定し、自分の生活を振り返ることで、より自分事として学習を進めることができるようにしている。 ○ 「こんなときどうする？」等の児童への問いかけや自分の生活習慣を振り返るコーナーを1 単位時間に設定することで、自分事として主体的に考えることができるよう工夫している。 ○ 写真やイラスト資料を数多く掲載することで、児童が興味・関心をもって学習に取り組むことができるようにしている。 				
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大単位の中で「もっと考えよう課」として「けがの簡単な手当の実習」などに関する内容や「減災」などさらに児童に触れてほしい学習内容などの二次元バーコードを掲載している。 ○ 「Clear」では「きみの心はよりよく発達しているかな？」などのように、次の学習活動のヒントとして児童に問いかけたり、「Complete」では「心と体がどんなにかわりがあるか」など、次の学習時間の予告をしたりして、児童の思考過程に合った内容にしている。 ○ 学習活動を示す様々なキャラクターを採用し、学習の流れに沿って知識の習得を促す内容を示したり、専門性の高いメッセージを示したりして理解を深める構成にしている。 				
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 写真やイラスト、吹き出し等を用いて、具体的なイメージをもたせたり学習内容を詳しく説明したりしている。 ○ カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮された書体や挿絵の配色を用いて見やすく学びやすいよう配慮している。 				

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	保健	208	光文	小学保健
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 習得させたい学習内容や語句については、太字で掲載することで重要語句が分かりやすく、知識の定着を図ることができるようにしている。 ○ 大単元の終わりには、「学習のまとめ」を組み込んでおり、知識の確実な定着を図ることができるようにしている。 ○ 基礎的な知識の習得の手助けとなるように、「豆知識」や「解説」等の文章資料を以前より増やしている。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大単元の導入で、児童が共感したり興味をもったりできるような4コマ漫画を掲載することで、学習内容と児童の実生活とをつなげることができる導入にしている。 ○ 1単位時間の中に「話し合おう」「生かそう」の学習活動に言語活動を組み込み、記述する欄を設けることにより、学びを広げたり深めたりすることができるようにしている。 ○ 感染症の予防や「性」の取扱い、ICT機器の活用にあたっての注意など、今日的課題を取り上げている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のすすめ方を見開きで大きく掲載することで、児童が学習の仕方を学び、主体的に学習に取り組む手助けとなるようにしている。 ○ 児童が自ら深く考える学習ができるよう、「見つけよう」「考えよう」「調べよう」「話し合おう」「生かそう」の学習活動を明記しており、自ら進んで学ぶことができるようにし、日常生活に生かそうとする実践力を育成しようとしている。 ○ 「考えよう」や「話し合おう」では、児童にとって身近な学習課題を設定することで、児童が主体的に学習に取り組んだり、対話的に学習に取り組んだりできるよう工夫している。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の教科や他の学年の学習内容との関連が分かるように掲載しており、本書内でも関連する内容のページ番号を掲載しているため、教科横断・系統性のある学習をすることができるようにしている。 ○ 写真や文章資料を数多く掲載しているため、児童の理解を深めると共に、発展的な学習へ結び付けるよう工夫している。 ○ パラリンピック金メダリストの里見選手などのアスリートや、音楽クリエイターのヒヤダイン氏などの著名人からのメッセージを掲載することで、児童にとって学習内容が自分の生活につながる身近な学習であることを意識することができるようにしている。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 写真やイラストを大きく掲載したり、定着させたい学習内容は太字で掲載したりしているため、重要な内容が目につきやすい工夫をしている。 ○ 文字やイラストはユニバーサルデザインに配慮し、カラーバリアフリーの対応をして読みやすくなるよう工夫している。 ○ 登場人物の性別や国籍、それぞれの役割に偏りがないようにし、固定観念を生まないよう配慮している。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	保健	224	学研	新・みんなの保健
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童に定着させたい内容は本文にまとめており、重要語句は太字で強調しているため、基本的学習内容の習得をしやすいようにしている。 ○ 1 単位時間の導入が、児童が自分の生活経験を振り返る学習活動になっていて、学習課題に主体的に取り組みやすく、基礎・基本の習得が図られるよう工夫している。 ○ 「話し合ってみましょう。」「書き出してみよう。」など児童が行う学習活動がはっきりと指示されているため、児童が取り組みやすく、学習内容の定着に役立っている。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 単位時間に、児童が自分の考えを伝えるような言語活動が必ず入るように設定しており、対話的な学びを通して、思考力・判断力・表現力等が身に付くよう工夫している。 ○ 1 単位時間の終わりには学習を広げたり、深めたりするのに役立つ資料や発展資料を掲載しており、学んだことを活用できるようにしている。 ○ 「個人差・多様性」や「ICT 活用と健康・安全」、「がん教育」など、今日的課題を取り上げ、保健の学習を生活の中で生かすことができるにしている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大単元の始めに学習計画を掲載することで、児童が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫している。 ○ 大単元の始めに「つなぐ」コーナーとして、関連する他教科や他学年の学習内容や、関連する職業を掲載することで、児童が教科横断的に学習できると共に、興味・関心をもって学習に取り組むことができるようにしている。 ○ 全1 単位時間の学習活動を「ふり返る」「意見を出し合う」「学びを生かす」等の3つの活動に固定していることで、児童が見通しをもち、主体的に取り組めるよう工夫している。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大単元の終末に発展学習として、「胸骨圧迫とAED」などを「もっと！知りたい・調べたい」のコーナーに掲載することで、学習した内容をより広げたり、深めたりできるよう工夫している。 ○ 小学校の学習内容以上の内容を示す「発展」マークや、「新型コロナウイルス感染症」などのように学習内容を広げたり深めたりするのに役立つ資料の「ほけんのはこ」マークなどを掲載していることで、児童が発展的・関連的に学ぶことができるよう工夫している。 ○ 興味関心を高め、科学的な理解に結び付けられるように、見えないものが見える化する「かがくの目」を記載している。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 ページにおける文字数が少なく、写真やイラストの資料が多く配置されているため、児童が重要な語句等を読み取りやすくしている。 ○ 写真やグラフが多く、児童の目に留まりやすいようにカラーユニバーサルデザインに配慮したり、見やすく読み間違えにくいUDフォントを使用したりしている。 ○ 光沢をおさえた、目に優しい用紙を使用したり、書き込みしやすく、耐久性に優れた用紙を使用したりするなどの配慮をしている。 			

種目 保健

※「IIデータの観点」の数値は、保健で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特長を捉える参考とすること。

IIデータの観点

項目		発行者番号・略称		2	4	50	207	208	224
				東書	大日本	大修館	文教社	光文	学研
共通データ	①総ページ数			77	69	73	83	65	89
	②単元数		大単元	3	3	3	3	3	3
	③1ページの標準文字数			655 P22	511 P23	328 P27	596 P25	478 P23	415 P28
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）		題材数	14	8	9	5	9	14
			ページ数	14	9	9	7	9	19
			ページ割合(%)	18.1	13.0	12.3	8.4	13.8	21.3
	⑤佐賀県に関する項目			0	3	0	1	0	0
	⑥写真等の数		写真	114	96	92	124	85	115
			図表	13	16	14	15	17	13
			文章資料	37	69	52	70	82	93
⑦指導者用デジタル教科書の有無			有	有	有	有	有	有	
⑧ウェブサイト等へのリンクの数			62	26	41	25	26	24	
種目別データ	⑨実習の数			3	3	3	3	3	3
	⑩発展的学習の数			14	16	22	13	16	16

※調査対象は、各発行者（対象：第5・6学年用教科用図書）

※①（総ページ数）：口絵や折り込みも含めて合計したページ数

※③（1ページの標準文字数）：単元「けがの防止」のページから、同内容の1ページを抜粋してカウント

※④（言語活動の充実が図られている学習）：「双方向のある話し合い活動」を通して考えが広がり、深まる活動と規定

※⑥（写真）：大小問わず写真の数（リーフレット、ポスター等は省く）

※⑥（図表）：グラフと（集計された）表

※⑥（文章資料）：「ミニちしき」「資料」「科学のとびら」「かいせつ」「豆知識」「つばやきくん」「情報コーナー」「もっとくわしく」等の数

※⑦（指導者用デジタル教科書の有無）：令和6年4月に指導者用デジタル教科書を発刊する予定であるもの
[令和5年6月現在]

※⑧（ウェブサイト等へのリンクの数）：ウェブサイトの記載及び二次元コード等の数

※⑨（実習の数）：技能の習得に関わる活動

※⑩（発展的学習の数）：家庭学習のきっかけとなり得る学習

英 語

観 点 英 語

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成したりするなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

児童の「思考力・判断力・表現力等」をはぐくむ観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、児童が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、児童の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係が明示してあるか。内容は、他の内容や他の教科等、学年、及び中学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、児童の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

(1) 児童が、外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するために、どのように示しているか。また、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにすることについて、どのように示しているか。

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養うことについて、どのように示しているか。

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことについて、どのように示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

(1) 教材は、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を総合的に育成するため、1に示す五つの領域別の目標と2に示す内容との関係について、単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示すとともに、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を取り上げることについて、どのように示しているか。

(2) 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点到に配慮されているか。

① 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てることに役立つことについて、どのように示しているか。

② 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うことに役立つことについて、どのように示しているか。

③ 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うことに役立つことについて、どのように示しているか。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	英語	2	東書	NEW HORIZON Elementary English Course
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文字を「書くこと」（書き写すこと）や「読むこと」の基本的なことについて、児童が段階的に学習できるよう、各単元の終末に Sounds and Letters を掲載している。文字の形の特徴を捉えて、ぐるりんグループやトランポリンググループなどに仲間分けをしたり、アルファベットの書き出しの位置である始点、書き順、方向を示したりしている。 ○ 既習表現を使ってやり取りを行う Small Talk が児童の身近な話題になっている。また、似たような表現で、話題を変えて尋ねられるようにしている。 ○ 第6 学年では、Listen and Think で聞き取りの例として、聞くポイントを示している。 			
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習した表現で会話をする Let' s Try や学習した表現が入っている文を読む Let' s Read などに Tips としてヒントやアドバイスがある。相手が話す内容をよく聞いたり、活動をさらにレベルアップしたりするためのポイントになる。 ○ 単元ごとのキーフレーズ以外に発表に関連する表現例（付け加える質問や相づちなど）を提示し、必要に応じて活用できるようにしている。 ○ 各単元の最後の Over the Horizon の「文化探検」、「フカボリ」、「世界探検」は考えながら聞くことができるよう、映像資料の提示やキャラクターとの会話形式にするなどの工夫がある。 			
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ Watch and Think で登場人物が話したことを聞いた後に、自分が伝えたいことを考えて整理する Your Plan の欄がある。 ○ Your Goal 発表前後で自分自身の姿を比べて振り返ることができる欄がある。 ○ 各単元で使われる語彙・表現について My Picture Dictionary との関連が明記されており、児童が主体的に学ぶ助けとなっている。 ○ Watch and Think で登場人物が話す内容の一部を示しているのも、英語表現を聞くときのヒントや見通しをもてるようになっている。 			
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第5 学年では「日本でつながるわたしたち」、第6 学年では「世界でつながるわたしたち」というテーマで全体を構成している。第5 学年は、第4 学年の社会で学習した日本について取り上げ、第6 学年になると徐々に世界へと目を向けた内容になっている。 ○ Starting Out → Your Turn → Enjoy Communication → Over the Horizon の順に自分自身のことから世界との関わりに関することへ目が向けられるようになっている。 ○ 各単元の初めに他教科と関連を明記している。 			
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 映像資料の中に出てくる写真や挿絵を掲載し、児童が聞く手掛かりや見通しをもてる工夫がある。 ○ 児童の興味・関心が高まるような有名人や名画、名所を取り上げており、学習効果が期待できる。 ○ 書く活動を行う際に、児童が書きやすいようにうすい文字で文の一部を示している。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	英語	9	開隆堂	Junior Sunshine
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元のテーマに合った歌が紹介されていたり、身に付けたい語彙・表現がチャンツになっていたり、基礎を無理なく身に付けられるように配慮している。 ○ 各単元が映像と音声で始まり、語彙に慣れ親しむ活動、聞く活動、伝える活動で構成され、さらに情報が増えた状態で一連の活動を繰り返し行うことで、ゴールを達成するために必要な語彙・表現を身に付けることができるように工夫している。 ○ 音声で十分に慣れ親しんだタイミングで書く活動を取り入れている。 ○ 語彙・表現は単元や学年を越えて繰り返し学習ができるように工夫している。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童にとって身近な話題で学習場面が設定してあることから、児童の表現活動に結び付けやすく、十分に慣れ親しんだ語彙・表現を活用しながら自分の思いをまとめることができる活動を取り入れている。 ○ 単元のゴールに身に付けた知識や技能を用いて表現する場面を設定し、そこに向かう過程において、聞く、話す、読む、書く活動が入っており、総合的な力を育むことができる。 ○ 単元の終わりに、Story Time としてこれまでの学習で習得した語彙による読み物があり、英語の復習をしつつ、中学校英語を意識した読む活動がある。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ Word Book では、四線に書かれた英単語と共にイラストが配置されており、児童の学習段階が考慮されたうえ、自ら学びやすいように工夫している。 ○ 単元のゴールに向かうステップと、巻末の CAN-DO チェックとが対応していて、児童が学習評価を行うときに、何がどのくらい「分かった」、「できた」のかを意識した自己評価ができるようになっている。 ○ 各単元が、自分を見つめたり、他者のことを表現したり、身近な町や日本、そして世界に目を向けたりする構成になっており、児童の知的好奇心が高まるにつれて、児童自身が話してみたい、伝えてみたいと思うような場面設定となっている。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第5、6 学年共に前学年までの学習の振り返りを含んだ内容で始まり、第6 学年の巻末では中学校との接続を図るページを設け、中学校英語に向けての意欲付けと連携ができるように工夫している。 ○ 単元の初めのページで単元のゴールとそこに至るステップが書かれており、どんな段階を踏んでゴールに向かうのかが分かりやすく説明されている。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の場合設定が児童にとって身近なものになっており、単元のゴールの姿がイラストで表現され、ゴール時の自分の姿のイメージを思い浮かべることができる。 ○ 基本的に1 時間に1 ページの構成とし、単元の何時目か、またその時間での学習内容が何か分かるようになっている。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	英語	15	三省堂	CROWN Jr.
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単語やフレーズのチャンツがあり、無理なく新しい表現を習得できる工夫がある。 ○ 単元の各 part が動画を視聴する、聞く、話す、活動する、伝え合う、読む、書く、の順に細かく区切ってあり、しかも活動が複雑ではないために、児童が基礎・基本を身に付けるのに無理がない構成になっている。 ○ 各小単元の Goal（書く・伝える活動）に向けて、part ごとに一文ずつ表現を増やしていき、それらをまとめると Goal として書く・伝えることができるような仕掛けとなっている、児童の負担が少なくなる工夫がある。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ Let' s speak で Key sentence の使い方を確認し、Let' s play で練習をした後に、Let' s talk で Key sentence を活用しながら自分の思いを伝えられるよう工夫している。 ○ 大単元のまとめである JUMP（目的・場面・状況を設定した発表）では、小単元の STEP（学んだ語句や表現を使ったコミュニケーション活動）で習得してきた表現を中心に自分の思いを伝える表現活動を行うように構成している。各学期の総まとめ的な意味合いがあり、振り返りながら学習することで、児童の活用力や表現力を高めることができる。 ○ 第6 学年では現在形と過去形、want to を使った題材が小単元で2つ以上続いており、繰り返し学習をすることで、表現の定着と活用を図ることができる工夫がある。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大単元の初めに、単元を学習することでどんなことを伝えることができるようになるかが示してあり、それを踏まえて「自分はどんなことを伝えたいか」を先に具体的に考えさせることで、自らが学ぶべき語彙・表現を最初に意識させるようになっている。 ○ 学習を進めながら語彙・表現に慣れ親しむことで、「読める」「理解できる」実感を持つことができる平易な物語が大単元ごとに用意してあり、学ぶ意欲に繋がると考えられる。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ HOP で学びの見通しを立て、STEP で語彙・表現を学び、慣れ親しんで、伝え合う、というスモールステップで構成され、学ぶプロセスを分かりやすいように配置している。 ○ 単元の各 part が動画を視聴する、聞く、話す、活動する、伝え合う、読む、書く、の順になっており、児童が学習の見通しをもつことができるような構成になっている。 ○ 第6 学年の終わりに、中学校で出会う人たちに向けた自己紹介動画を作る活動があり、小学校での学習の復習をしつつ、中学校英語への連携を図っている。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の初めのページは「目的・場面・状況」が分かるようになっており、Let' s watch や Let' s listen などの活動のページは、必要な情報を適切な分量で見やすく配置している。 ○ 児童がふと疑問に思うことが教科書枠外にミニ情報として書いてあり、疑問解決や知識の習得の手助けとなる工夫がある。 ○ 児童が興味をもちそうなコラムが大単元ごとにあり、言語だけでなく外国の文化に触れる手助けになると共に、外国に対して興味をもったり、日本の良さを改めて認識したりする機会となるようにしている。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	英語	17	教出	ONE WORLD Smiles
一【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入において、Let's Watch (映像の視聴) を視聴することで、単元でどのような内容を学習し、単元末でどのような言語活動を行うか見通しがもてるようにしている。 ○ 単元前半のページには、歌やチャンツ (口慣らしの活動) 等で慣れ親しむ活動やシールを貼ったり、コミュニケーションの状況を考えたりする「聞く活動」で繰り返し英語表現や語句をインプットできるようにしている。 ○ 単元最後に、アルファベットや音声と文字のつながりを学ぶページがあり、継続的に少しずつ文字に慣れ親しむことができるように構成している。 			
二【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでに習得した知識を活用した Activity (言語活動) が繰り返し設定されていて、自分の気持ちや考えを伝えながら、新しい語彙・表現を習得できるように工夫をしている。 ○ 単元最後の Final Activity (単元目標を実践する最終活動) では、発表ややり取りによって、単元の学習内容について表現する活動を設定している。単元ごとに言語活動を積み重ねて習得した表現を活用して伝え合う活動と個人、グループ、学級で発表資料や掲示物等を作製する活動によって、思考力・判断力・表現力を育成できるように構成している。 			
三【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元最初の見開きページに単元の Goal (めあて) が明記されており、単元の見通しをもって活動することができるようにしている。 ○ Goal で伝えたいことやその理由をまず日本語で考える Think というコーナーがあり、自分が伝えたい内容を明確にして単元の学びを始めることで、児童自らが必要な語彙・表現を意識して学習を進められるように工夫をしている。 ○ 第6学年では、知らない英語に出会った際の解決方法を学ぶページが設定されていて、発展的に和英辞典の使い方を取り扱い、児童の主体的な学習態度を育むように構成している。 ○ Let's Look at the World (国際理解コーナー) や World of Smiles (単元に関する内容を外国の児童が紹介するコーナー) では、自分達の身近な事象と比較しながら、言語や文化、外国との相違点に気付くことができるようにしている。 			
四【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ Let's Start Together (外国語活動の学習内容の復習) では、第4学年までに学んだ内容について、イラストで確認したり話し合ったりして、復習できるようにしている。 ○ Let's Read and Act (「読むこと」に特化したコーナー) では、「はしの上のおおかみ」や「おてがみ」など、児童に親しみのある教材を取り上げ、徐々に長い文章を読むことができるように中学校での学習も意識した掲載となっている。 			
五【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ ミシン目が入って切り取りやすい絵カードや単元最終の言語活動に活用できる絵カードが付属していて、それらを用いて意欲的に活動することができるように配慮されているとともに、評価する際の資料にも利用できるように工夫をしている。 ○ 日本 (第5学年) や世界 (第6学年) の名所・名物マップには、写真やイラストで多くの情報が掲載されており、伝え合う活動への意欲を高める工夫をしている。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	英語	38	光村	Here We Go!
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 单元ごとの Goal に目的・場面・状況が明記されている。 ○ 单元の最初に示されているイラストで「場面・状況」についての説明があり、児童が音声を聞き取る手掛かりとなるように配慮されている。 ○ Story で全体を把握し、Let' s listen and point. で簡単な表現を聞いて分かる体験をした後、Let' s watch. や Let' s listen. を経て、Let' s try. で実際にやってみるという段階的な構成にしている。 ○ 巻末に語彙・表現の書き方や表現を簡潔にまとめ、文を書くときの符号や語順についても分かりやすく示している。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「心をつなぐ言葉」として相手を気遣う表現を推測させたり、災害が起こったときに助けてくれる人たちについて考えさせたりするページがあった。 ○ 第6学年の巻末におすすめの絵本が掲載されており、授業への活用や児童が読んでみようとする事が期待できる。 ○ いくつかの単元のまとめとして「世界の友達」があり、映像とともに既習表現を聞いたり、その内容についてどんな質問をしたいか考えさせたりするようにしている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ Let' s try. では、グループ内で紹介し合ったり尋ね合ったりし、Plus One では、グループで全体へ発表する形になっており、児童が協働して学ぶことができるようになっている。 ○ Picture Dictionary が教科書と一体型になっており、児童が調べたいときにすぐに調べられる構成にしている。 ○ コミュニケーションにおいて、いつでも大切なポイント (Clear Voice や Response) をいずれの学年でも同じように示している。 ○ Jump! の中の Let' s read. や Let' s write and speak. を児童自身のやり取りや発表に活用できるようにしている。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ Goal までの学習過程を Hop! → Step1 → Step2 → Jump! と単元の最初に示されており、児童も指導者も見通しがもちやすいようにしている。 ○ ページごとにどんな活動をするのか明記している。 ○ 小学校で発音について評価することはないが、発音で気を付けたいことをページ下部に示されており、日本語との音声の違いに気付かせるようにしている。 ○ 「Link 国語」といった形で他教科との関連が示されている。 ○ 第6学年の巻末に中学生になったときの自己紹介や海外の友達と交流するときに見えるシートやその活用の方法を紹介している。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ イラストがポップで明るい色遣いとなっており、児童が楽しみながら学習できる事が期待できる。 ○ 児童があこがれをもつような有名人やスポーツ選手が取り上げられており、興味・関心の高まりが期待できる。 ○ 白い背景に写真やイラストと文字が分かりやすく配列されており、見やすくしている。 			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	英語	61	啓林館	Blue Sky elementary
一 【基礎・基本の習得】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の構成が、単語や表現を聞いて意味を想像したり、話を聞き取ったりする活動によるインプットと簡単なコミュニケーション活動によるアウトプットを繰り返すことで、単元で習得する内容について慣れ親しむことができるように工夫している。 ○ 基礎的な語彙・表現を挿絵と共に明記し、Chant（口慣らしの活動）や聞く活動、話す活動によって繰り返し活用しながら、知識・技能の定着が図られるようにしている。 ○ 音声中心で学びが始まり、段階的に文字の学習に取り組み、徐々に文字を読んだり書いたりする機会を増やすことで、丁寧に「読むこと」「書くこと」の力を養うようにしている。 			
二 【活用する力の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の初めにアニメーションを視聴して、コミュニケーションの場面や話の内容を想像することで、気持ちや考えを伝えるためにどのような工夫をしているのかを考えることができるように配慮している。 ○ Activity（単元目標を実践する最終活動）は、自分が伝えたいことをWord List（絵単語集）の中から選んで話すことによって、思考力・判断力を養えるようにしている。 ○ Tips（会話のヒントコーナー）において、相手に伝わり易い表現の仕方や伝えたい内容をより詳しくするための方法などを学び、言語活動に生かせるようにしている。 			
三 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の第1時目に、単元の最終目標とそこに到達するための小目標が示されており、単元の見通しをもって活動することができるようにしている。また、その目標を達成できたか簡単に振り返りながら、進めることができるように配慮している。 ○ 単元最後のLook Back（ふり返り）では、できるようになったことを確認したり、学びを今後に生かすことを考えさせたりして、学習態度の自己評価ができるようにしている。 ○ Activityの前や単元末に児童の興味・関心を高めるような異文化情報を豊富に扱い、外国の文化や生活を理解し、尊重する心を育成することができるようにしている。 			
四 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 映像から導入を図ることで、児童が抵抗なく英語に接することができるように配慮したり、イラストや写真を使って効果的に学習ができるようにしたりしている。 ○ 第5学年のPre Unitでは、第4学年までに学習した語彙・表現に再度触れるようにしている。また、外国語活動で慣れ親しんだ単語を巻末のWord Listに掲載し、繰り返し使用できるようにしている。 ○ 第6学年の最後の単元では、やってみたい部活動や中学校生活について考える内容にしていて、中学校への接続を意識している。 			
五 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末にミシン目入りの絵カードがあり、ゲームや語順を考える活動に活用できるように工夫している。 ○ Chantには、アクセントの場所に印が付けられており、強勢を意識しながら、英語のリズムで言えるように配慮している。 ○ 見やすさ、読みやすさ、書き込みやすさに配慮した大きな判型（A4判）を採用している。 			

種目 英語

※「IIデータの観点」の数値は、英語で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特長を捉える参考とすること。

IIデータの観点

項目		発行者番号・略称		2	9	15	17	38	61
		東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館		
共通データ	①総ページ数		96	128	112	108	110	132	
	②単元数	大単元	8	8	7	8	8	8	
	③1ページの標準文字数		45	59	39	47	33	69	
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	11	8	10	8	9	8	
		ページ数	22	16	20	16	18	16	
		ページ割合(%)	22.9	12.5	17.8	14.8	16.3	12.1	
	⑤佐賀県に関する項目		2	1	1	1	0	1	
	⑥写真等の数	写真	129	227	112	129	232	165	
		図表	87	120	116	105	94	135	
		文章資料	1	3	2	0	3	6	
⑦指導者用デジタル教科書の有無		有	有	有	有	有	有		
⑧ウェブサイト等へのリンクの数		68	57	55	55	50	130		
種目別データ	⑨「聞くこと」を中心として設定されている活動数		24	33	25	24	25	30	
	⑩「読むこと」を中心として設定されている活動数		13	11	7	6	15	10	
	⑪「話すこと（やり取り）」を中心として設定されている活動数		13	16	19	14	16	15	
	⑫「話すこと（発表）」を中心として設定されている活動数		10	7	3	3	7	8	
	⑬「書くこと」を中心として設定されている活動数		7	8	3	8	4	8	
	⑭多様な考え方に対する理解を深めるための活動数		7	8	5	9	8	9	

※調査対象は、各発行者の第6学年の教科書

※①（総ページ数）：教科書本体のみのページ数（追い込みやカード等は含まない。）

※③（標準文字数）：「読むこと」を中心とした単元の中で最も多く英単語を用いているページを取り出し、そのページで用いられている英単語数をカウントしたデータ

※④（題材数）：言語活動の充実が図られている題材としてカウントしたデータ

※⑥（写真）：1枚ずつカウントしたデータ

※⑥（図表）：内容的に関連のあるものを1つとしてカウントしたデータ

※⑥（文章資料）：単元外のコラムや読み物をカウントしたデータ

※⑦（指導者用デジタル教科書の有無）：令和6年4月に指導者用デジタル教科書を発刊する予定であるもの
[令和5年6月現在]

※⑧（ウェブサイト等へのリンクの数）：啓林館の数が極端に多いのは、各ページのそれぞれのパート毎に二次元バーコードが付いているため。（他発行者は主に、2ページに1つの二次元コードが付いており、各パートでまとめられている。）

※⑨～⑬（「5領域」を中心として設定されている活動数）：単元の内容に絞ってカウントしたデータ

※⑭（多様な考え方に対する理解を深めるための活動数）：単元内外を問わず、活動数をカウントしたデータ

道 德

観 点 道 徳

I 基本的観点

1 【道徳的諸価値の理解】

学習指導要領に示された道徳科の目標、内容に基づいて教材を厳選し、道徳的諸価値の意義やその大切さなどの理解が図られるように編集しているか。

2 【主体的な学習態度の育成】

児童が、自己を見つめ物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について主体的に議論することができるように教材を配列しているか。また、児童の発達段階に応じて、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習などを行うことができるように教材が充実しているか。

3 【説明の平明さ】

教材と内容との関係が明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年、及び中学校との系統性・関連性・発展性を考慮し、児童の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

4 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 問題解決的な学習や体験的な学習、郷土の特色が生かせる学習に配慮した教材数に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 特別の教科の目標との関連

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることについて、どのように示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

(1) 児童の発達の段階や特性、地域の実情等を考慮し、多様な教材の活用に努めることについて、どのように示しているか。

(2) 生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用を行うことについて、どのように示しているか。

(3) 教材については、教育基本法や学校教育法その他の法令に従い、次の観点に照らし適切と判断されるものであることについて、どのように示しているか。

① 児童の発達の段階に即し、ねらいを達成するのにふさわしいものであること。

② 人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものであること。

③ 多様な見方や考え方ができる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること。

I 基本的観点

観点項目	教科		発行者の番号・略称		書名
	道徳	2	東書		新編 新しい道徳
一【道徳的価値の理解】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現代的な課題である「安心・安全」「いじめ」「情報モラル」「いのち」「じぶん」について取り組む5つのユニットを全学年に設定し、同じ時期に配列している ○ 「いじめ」についてのユニットでは、とびらページ、直接的教材、「つながる・広がる」、間接的教材の構成が全学年に配置されており、いじめを多面的・多角的にとらえることができるようになっている。いじめ防止に関わる3つのユニット（「いじめ」「いのち」「じぶん」）の最後に、エンカウターの活動を取り入れ、自分のよさや可能性を見つめる学習ができるようになっている。 ○ SDGsに関わる複数の教材を取り入れ、SDGsの考え方について簡単に解説するコラムを掲載し二次元コードを掲載し児童が主体的に学ぶことができるように工夫している。 				
二【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の学習の流れを「気づく」「考える」「広げる・深める」と明示し、学んだことをこれからの生活や学習に広げていくことができるように配慮している。 ○ 基本の学び方以外にも、第1・2学年では「やってみて考えよう」「演じて考えよう」「問題を見つけて考えよう」、第3学年以上では、「演じて考えよう」「問題を見つけて考えよう」という教材がいくつか取り上げられており体験的な学習や問題解決的な学習ができるようにしてある。 ○ 各教材の最後に道徳的価値に迫る中心発問、自分を振り返り、自己を見つめ、これからの生き方にかかしていくための発問を示し、心情のみに終始することなく、自己との関わりで考えることを促している。 ○ 複数教材の最後に「つながる・広がる」を設け、ほかの学習とつなげたり、普段の生活に広げたりすることができるようになっている。 ○ 各学年巻末の「考えるためのツール」には、自分の考えを可視化する様々な思考ツールを例示し、友達と考えを比べ、多様な感じ方や考え方があることに気付くことができるように工夫している。 				
三【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末には視点、内容項目、教材名、主題名、他教科等との関連と合わせて、関連するテーマを一覧表にまとめて掲載している。 ○ 各教材の最初のページには内容項目の視点を配色とマークで分かるようにし、4つの視点で教材を分かりやすくまとめているページを設け、何を学ぶのかを意識しやすい工夫をしている。 ○ 全ての教材に教科書サイトへリンクする二次元コードを示し、ワークシートや朗読、教材に関連する動画等が視聴でき、児童の思考を深めるために活用できるようになっている。 				
四【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の学習意欲を喚起するため、写真や挿絵などのビジュアルから考える教材や漫画を活用した教材など、様々な形式の教材を掲載している。 ○ 導入の情報量を減らし、先入観なく教材を読むことができるようになっている。 ○ 朗読音声やスライドショーが視聴でき、教材の読字に困難さがある児童が教材の内容などを理解しやすいように配慮している。 ○ 高い視覚効果により児童の心に訴えかけることができるよう、サイズはA B判を採用している。 				

I 基本的観点

観点項目	教科		発行者の番号・略称		書名
	道徳	17	教出		小学 道徳 はばたこう明日へ
一【道徳的価値の理解】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現代的な課題について児童が問題意識をもって考えることができるように、全学年でいじめ問題と情報モラルを共通主題として扱い、各学年で独自の重点主題を設定し、「教材＋コラム」の構成でユニット化している。 ○ いじめ問題については、児童の生活実態や発達段階に応じて、より深く考えることができるよう、場面や視点を段階的に広げている。 ○ 高学年に偉人や現在活躍する人物の教材を多く取り上げ、人物の生き方からよりよく生きることの素晴らしさなどを実感できるよう配慮している。 ○ 現代社会が抱える様々な問題について児童一人一人が課題を発見し、考え、持続可能な社会の形成に関わっていくことができるよう、SDGsに関連する教材や資料がある。 ○ 本教材30本と補充教材5本で構成し、補助教材に変えて、それぞれの地域の偉人や風習を取り上げる教材や自作教材を学校の実態に合わせて扱うことができるようになっている。 				
二【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年の教科書に学びのガイダンスとして、「考えよう」「深めよう」「つなげよう」と明示し、言語活動が適切に行えるようにしている。 ○ 各学年に具体的な場面を想定した「たいけん」教材があり、児童の発達段階に応じて「やってみよう」と投げかけ、道徳的行為に関する体験的な学習を行うことができるようにしている。 ○ 教材末の「学習のてびき」には、様々な問いが設定してあり、児童が自ら考え、議論しながら、自分の生き方についての考えを深められるような構成になっている。 ○ 各学年に教材文の終わり方を工夫し、人物の悩みや葛藤、心の揺れなどに対する、児童の多様な意見を引き出し、議論が活発になるような工夫をしている。 ○ 教材ごとに「学習のてびき」があり、道徳的価値の理解を促すために、まず教材について考え、次に価値や自分について考えるという道筋を示している。 				
三【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「たいけん」教材では、役割演技の場面が具体的に書かれているため、体験的な学習を行いやすくなっている。 ○ 教材は内容項目ごとにまとめず、指導時期を考えて適切に配置し、その間に学んだ他の内容項目の学習をもとに、より深く、新たな観点で学ぶことができるよう工夫している。 ○ キャラクターによる導入でねらいとする道徳的価値や教材内容への導入を図り、児童の興味・関心や問題意識を高めることができるよう工夫している。 ○ 教材末に二次元コードを示し、関連するサイトへつなげて、興味・関心を高められるようにしている。 				
四【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表紙の絵の内容は、人とかかわりや社会とかかわりの中で、健やかに成長していく姿を表現したものを採用している。 ○ 教材のタイトルの文字を内容に合わせてデザインを変えることで児童の興味・関心を高める工夫がされている。 ○ ワイドに写真やイラストを掲載できるようにサイズはA B判（縦幅がB 5 横幅がA 4）を採用している。 				

I 基本的観点

観点項目	教科		発行者の番号・略称		書名
	道徳	38	光村		道徳 きみがいちばんひかるとき
一【道徳的価値の理解】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年でいじめ問題と情報モラル、第3学年以上は、SDGsにつながる環境と共生などの現代的な課題に対応したテーマについて、教材とコラムを組み合わせたユニットを設置し、児童が発達段階に応じて考えることができるように工夫している。 ○ 全学年において年間を時系列で独自の3つの学習のまとまりに分けた上で、学校生活や児童の実態に応じ、内容項目の配列を工夫し、道徳的価値をより自分のこととして受け止めることができるように配慮している。 ○ 各学年に、「学校」「自分らしい楽しい」「うそ」などをテーマに、児童が問答できるページ「なんだろう なんだろう」を設けている。複数の道徳的価値が含まれており、児童が進んで考えることができるよう工夫している。 				
二【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2学年以上の第1教材「道徳がはじまるよ」では、道徳は何を学ぶ教科なのかが理解できるように、わかりやすい言葉やイラストで内容項目を示し、「道徳みちあんない」では、1年間の教材の配列を示し1年間の学びの全体像を見通し意欲的に学べるようになっていく。 ○ 第3学年以上の第2教材では、道徳の学び方を示しており、教科書が自学自習の支援となる役割を果たすよう工夫している。 ○ 各教材末のてびきには、「考えよう・話し合おう」「つなげよう」を設定している。「考えよう・話し合おう」では、教材を通して学んだことを自分に引き寄せて考えたり、問題を解決したりするために話し合ったり、考えたりする発問を設け、「つなげよう」では、他の学習や生活の中で関連して考えてほしいことを提示し、主体的な学びを促している。 ○ 1単位時間ごとに学習の振り返りを記録する「学びの記録」を巻末に設けている。第1～4学年はシールを貼ることで、第5・6学年は、一言感想を書きこむことで自己評価を行うことができ児童が自分の変化や成長を振り返ることができるようにしている。 ○ 第2学年以上の教材に「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」、「心をかよわそう」、「『考える』準備体操」を設定し、お互いを信頼して話し合える関係づくりを促したり、対話の面白さを味わう機会を設けたりしながら、対話を通して多面的・多角的な見方で考えを深めていくことができるように工夫している。 ○ 第3学年以上では、児童が考えを広げたり整理したりできるよう、教材の特性や発達の段階に応じて思考ツールの活用を提案をしている。 				
三【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年を通して「こころん」「きらりん」「もやもやん」というキャラクターの呼びかけをきっかけに、日常や他教科・領域、また人間理解へつながるようにしている。 ○ 教材によっては、教科書サイトへリンクする二次元コードを示し、写真や音源を活用できるようにすることで、児童が効果的に学べるように工夫している。 				
四【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み物教材の他にも、視覚的に児童の興味・関心を喚起する漫画形式の教材、見開き1枚絵などから考える教材が位置付けられ、親しみやすく工夫されている。 ○ 児童が手に持ちやすく、扱いやすさにサイズは、B5判を採用している。 ○ 内容項目やテーマ毎に色やマークを統一し、低学年でも分かりやすくしている。 ○ 関連する教科を示すマークやSDGsに関連する教材にもマークを付けている。 				

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	道徳	116	日文	小学道徳 生きる力
一 【道徳的価値の理解】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年を通して、いじめに関するユニットを3つ配置している。1つのユニットの中に複数の教材を配置し、いじめ問題への対応を重視している。 ○ 35の教材以外にもさらに各学年3つの教材が掲載されており、児童の実態に応じて差し替えて指導することができるように配慮している。 ○ 「個性の伸長」と「感謝」の項目を重視し、新しい教材を増やし、児童がありのままの自分を見つめ、自分の良さに気付くことで、自己肯定感の涵養につながるようにしている。 ○ 巻末に身のまわりの生活から、自分がよいと思う道徳的価値に気付くヒントとして「みつけた！ここにも道徳」が掲載されている。 			
二 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の学習の流れを「気づく」「考える・深める」「見つめる・生かす」と明示し、3つの発問で「学習の流れ」を作り、児童が主体的に学ぶことができるように工夫している。 ○ 学習したことについて、他の教科などつなげて、考えを広げるために「心のベンチ」を各学年に5つ（いじめ、情報モラル、SDGs、多文化共生、自己肯定感）取り上げている。道徳的価値をより深く、多面的・多角的に考えることができるよう、さまざまな活動を多く取り上げてある。「心のベンチ」はいじめの未然防止につながる内容を扱っている。 ○ 「ぐっと深める」を全学年で複数掲載し、他者と対話しながら協働する場面を設定している。 ○ それぞれの教材に二次元コードがついており、内容に関連した動画や授業の中で心情の揺れ動きが分かるように心情メーターが1つの教材に3つずつあるなど、コンテンツが豊富で児童の学ぶ意欲を高めている。 ○ 道徳ノートがフリーページのみとなり、主発問を自由に設定できるようになっている。 			
三 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習に取り組めるように、「ぐっと深める」のほとんどに、実際に活動する児童の写真やイラスト、学習の進め方などを掲載し、詳しく説明している。 ○ 「心のベンチ」のそれぞれのページでは、他の教科との関連を表記してある。 ○ 4つの視点ごとにマークと基調となる色を使い分けて示し、内容項目をわかりやすい言葉で掲載すると共に、各教材名の下に導入の発問例を示すことで、学習の手がかりを示し、学習のねらいがはっきりと分かるようにしている。 ○ 教科書に付属してデジタルノートと紙の道徳ノートがあるため、多様な使い方ができる。 			
四 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年を通して、表紙に、児童の生き生きとした表情を捉えた写真を掲載することで、よりよく生きていく姿を想起させ、学習に興味をわくように配慮している。 ○ 多くの場面で写真をダイナミックに使っており、実物の力強さを感じさせるような工夫がある。サイズはA B判を採用している。 ○ 低学年ではイラストが多く使われているなど、発達段階に応じてイラストと写真を効果的に使い分けている。 ○ 教材冒頭にリード文を示したり、主な登場人物を整理して配置したりするなどして、教材を読み取りやすくするための配慮をしている。 			

I 基本的観点

観点項目	教科		発行者の番号・略称		書名
	道徳	208	光文		小学道徳 ゆたかな心
一 【道徳的価値の理解】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「いじめ」と「命」と学年独自の主題を重点主題とし、発達段階に応じて設定している。道徳的価値の理解を深めるために、重点主題については連続して学習できるよう複数の教材をまとめて配列している。「いじめ」については、各学年の発達段階を踏まえた直接的・間接的に考えられる教材を取り上げ、様々な観点から考えを深められるようにしている。 ○ 現代的な課題について考えられる教材を掲載し、SDGsとの関わりを明記するページを設けている。 ○ 35の教材以外にもさらに各学年5～6点の教材が掲載されており、児童の実態に応じて差し替えて指導することができるように配慮している。 				
二 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の初めに主題と内容項目に関わる問いかけを示し、教材の最後には「かんがえよう・まとめよう・ひろげよう」を提示することで、児童の主体的な学びを促すことができるように工夫している。 ○ 全学年の巻頭に様々な思考ツールや話し合いの仕方を掲載している。「話し合ってみよう」では言葉のカード（対話ツール）が紹介しており、話し合いに活用できるようになっている。 ○ 全学年の教科書に人間関係をゆたかにする教材「みんなでやってみよう」を掲載している。実際に問題となる場面を想定し、発達段階に応じた内容で体験的な活動ができるように工夫している。 ○ 全学年で巻頭に、内容項目を広がりがあるように視覚的に表現した「ゆたかな心」や道徳の時間と日常生活とのつながりを図式化した「道徳の時間はこんな時間です」等を設け、児童が見通しをもって主体的に学習を進めることができるように配慮している。 ○ 学習の振り返りを積み重ねて記録する「学びの足あと」を巻末に設けている。顔の表情や心の矢印で表現するなど発達段階に応じて意欲的に記録ができるように工夫されている。 				
三 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の初めに、登場する人物が紹介や場面状況を描いたイラスト、実物写真などを掲載し読みの理解や思考の深まりを手助けするような工夫をしている。 ○ 第1～3学年は総ふりがなに、第4学年以上は当該学年以上の漢字にふりがながつけてあり、読みやすさを考慮している。 ○ 4種類のアイコンで内容項目の視点を表現し、児童が何を学んでいるかがわかるように工夫している。 ○ 教材によっては、教科書サイトへリンクする二次元コードを示し、写真や音源を活用できるようにすることで、児童が効果的に学べるように工夫している。 				
四 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ スペースが大きく見やすい紙面で、児童が扱いやすいようにサイズはA B判を採用している。 ○ 重点主題教材の直前には、扉を設け、関連する教材名を紹介し、複数時間の構成のまとまりが分かるように関連するページの背面の色を黄色として分かりやすくしている。 ○ 児童の思考促すために、ダイナミックな一枚絵、迫力のある写真、親しみやすい漫画、長く読み継がれてきた名作、実話に基づく教材など多様な表現方法を工夫している。 				

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	道徳	224	学研	新版 みんなの道徳
一 【道徳的価値の理解】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年において、複数の内容項目からなる2つの教材を「いのち」「みんなで」「みらいへ」という主題でユニット教材として組み合わせて配列している。 ○ 「いのち」を最重点主題とし、全学年で生命の尊さの内容項目を3本掲載している。「いのちユニット」では、異なる内容項目の教材を組み合わせて、多面的・多角的に「いのち」に向き合うことができるように工夫している。 ○ 「心のパスポート」では、教材の関連情報を掲載し、様々な視点から多様な学びを実現することができるようにしている。 ○ 低学年では動物などを主人公にした物語などのフィクションを多く取り上げ、高学年になるに従って偉人伝や実話などのノンフィクションを多く取り上げるなど、児童の発達段階に即した教材を用いている。 			
二 【主体的な学習態度の育成】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教材のページには主題名を示さず、教材名の下に、教材への関心をかきたてる投げかけとして、教材中の印象的な言葉などをキーフレーズとして掲載し、児童が意欲的に読み、考えたい工夫をしている。 ○ 各教材の最後に配置した「考えよう」では児童がより深く、教材について考え、自己を見つめて考えるきっかけとなる問いを載せている。 ○ 結論を示さない教材を全学年に同程度の割合で取り上げ、児童が問題解決的に学びを積み重ねることができるようにしている。 ○ 全学年で自分の考えを書き込む欄を設けており、特に低学年では、カルタや賞状を取り入れるなど、言語活動の充実に配慮している。 ○ 佐賀に関連する教材が第2学年と第4学年に一つずつあり、地域に関わりのある教材として学習することができる。 ○ 全学年に複数回設けた「深めよう」のコーナーでは、「つかもう→さがそう→ふみ出そう」の3段階の学び方を示している。自分の考えを書き込む欄があり、書き込んだ内容をもとに話し合うことで、多面的・多角的に学び、道徳的実践力につなげられるように配慮している。 			
三 【説明の平明さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユニット教材として組み合わせた「いのち」「みんなで」「みらいへ」を取り扱った教材の1ページ目には写真と扉のページを設けていると共に、ページ下部に色帯を付け、学習のまとまりを分かりやすくしている。 ○ 教材への理解を助けるために、必要に応じてページの下部に余白を設け、難しい言葉などに適宜注釈を掲載している。 ○ 教材によっては、教科書サイトへリンクする二次元コードを示し、写真や音源を活用できるようにすることで、児童が効果的に学べるように工夫している。 			
四 【紙面の明瞭さ】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挿絵やイラスト、図表が見やすいようにサイズはA B判を採用している。 ○ 内容項目やテーマ毎に色やマークを統一し、低学年でも分かりやすくしている。また、自分の考えを書き込む欄を太い線で囲んでおり一目で分かるようにしている。 ○ 自分を取り巻く社会と現代的な課題に意識を向け自分事として課題に向き合うためのマークを作成し、現代的課題、SDGsへつなげ意識を高めることができるように工夫している。 			

種目 道徳

※「Ⅱデータの観点」の数値は、県教育委員会で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特長を捉える参考とすること。

Ⅱデータの観点

項目		発行者番号・略称		2	17	38	116	208	224	
				東書	教出	光村	日文	光文	学研	
共通データ	①総ページ数			195	181	210	194	194	170	
	②教材数			35	30	35	35	35	35	
	③1ページの標準文字数			703	642	809	653	944	653	
	④言語活動の充実が図られている学習(活動)	教材数			6	23	14	6	18	4
		ページ数			31	102	73	24	72	23
		ページ割合(%)			15.8	56.3	34.7	12.3	37.1	13.5
	⑤佐賀県に関する項目			0	0	0	0	0	0	
	⑥写真等の数	写真			96	55	84	119	100	113
		図表			10	5	5	15	10	4
		文章資料			10	7	4	12	4	1
⑦指導者用デジタル教科書の有無			有	有	有	有	有	有		
⑧ウェブサイト等へのリンクの数			51	61	22	40	9	11		
種目別データ	⑨問題解決的な学習を取り入れることを示した教材数と割合(%)			2	2	4	1	1	2	
				5.7	6.6	11.4	2.8	2.8	5.7	
	⑩道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることを示した教材数と割合(%)			5	4	2	3	2	1	
				14.1	13.3	5.7	8.5	5.7	2.8	
	⑪現代的な課題と向き合う学習を取り入れることを示した教材数と割合(%)			29	17	30	28	26	30	
				82.8	56.6	85.7	80	74.2	85.7	

※調査対象は、各発行者の6年生の教科書(分冊型は主たる教科書)

※①(総ページ数):教科書の大きさを基準とし、表紙裏や口絵、折り込みも含めて合計したページ数

※②(教材数):補充教材や付録、巻末資料等を除いた、教科書本編の教材数

※③(標準文字数):長編の読み物教材を基準教材とし、一番文字が多いページの文字数

※④(言語活動の充実が図られている学習):児童一人一人の考え方や感じ方を表現する、話し合う活動や書く活動、または表現活動を取り入れることを示しているかで判断

[2冊構成になっている教科書については、主に読み物教材で構成されている教科書を対象とし、主に記述式のノートになっている教科書は除いて調査]

※⑥(写真等の数):大きさの大小は問わず1つと数えた、内容の理解をたすけるための写真、図表、文章資料の数

※⑦(指導者用デジタル教科書の有無):令和6年4月に指導者用デジタル教科書を発刊する予定であるもの

[令和5年6月現在]

